総　務　財　政　委　員　会　記　録（Ｎｏ．２５）

１　日　　時　　令和６年４月２４日（水）
午後　１時００分　開会
午後　２時４５分　休憩
午後　２時５５分　再開
午後　４時２３分　閉会

２　場　　所　　第６委員会室

３　出席委員（１０人）

委員長	佐藤栄作	副委員長	三宅まゆみ
委員	村上幸一	委員	戸町武弘
委員	成重正丈	委員	岡本義之
委員	大石正信	委員	篠原研治
委員	井上純子	委員	村上さとこ

４　欠席委員（０人）

５　出席参考人
公立大学法人北九州市立大学　学長　柳井 雅人

６　出席説明員

政策局長	小林亮介	総務国際部長	窪田浩治
大学担当課長	渡辺　学	大学整備担当課長	大畑　崇

外　関係職員

７　事務局職員

委員会担当係長	松永知子	委員会担当係長	梅林莉果

８　付議事件及び会議結果

番号	付　　議　　事　　件	会　議　結　果
1	人口増加対策について	人口増加対策に係る意見聴取のため、参考人の出席を求めることを決定した。また、参考人から北九州市立大学の新学部設置を踏まえた人材育成や地元就職支援等の現状や課題について意見聴取した。
2	北九州市立大学の新学部について	政策局から別添資料のとおり報告を受けた。
3	各種委員の選出	北九州市民共済生活協同組合理事に佐藤栄作委員を、北九州市住居表示審議会委員に村上幸一委員及び大石正信委員を、北九州市社会教育委員に岡本義之委員及び井上純子委員をそれぞれ選出した。

９　会議の経過

（４月１日付人事異動に伴う人事紹介を受けた。）

○委員長（佐藤栄作君）それでは、開会します。

本日は、所管事務の調査を行った後、政策局から１件報告を受け、各種委員の選出を行います。

初めに、所管事務の調査を行います。

人口増加対策についてを議題とします。

まず、参考人の出席要求についてお諮りします。

本市の人口増加に寄与する若者の地元就職や定住・移住の促進に向け、公立大学法人北九州市立大学における新学部設置を踏まえた人材育成や地元就職支援等の現状や課題について御意見を伺うため、学長の柳井雅人氏に参考人として出席を求めたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

それでは、柳井学長に入室いただきます。

（参考人入室）

初めに、委員会を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げます。

本日は御多忙にもかかわらず、本委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本委員会では、現在、人口増加対策について調査を行っており、本市の人口増加に向けた若者の地元就職や定住・移住の促進に向け、議論を重ねております。地域に密着した貴校ならではの人材育成や地元就職支援の取組、それから新学部の設置に向けた思いなどを直接お伺いいたしまして、今後の議論の参考にさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の流れですが、初めに柳井学長から御説明をいただき、その後に各委員から御質問させていただきたいと思います。

それでは、柳井学長、よろしくお願いいたします。

○参考人（柳井雅人氏）皆さんこんにちは。柳井でございます。

私は10分いただけるということですので、非常に簡潔に説明していきたいと思います。

まず、この10分の中でお話ししたいのは、当事業の置かれている大枠についてまずお話をしたいと。そして次に、本日呼ばれている人口増加の対策ということで、それとの関連で今度の新学部がなぜ必要なのかという、そのための前段の話を、そして、じゃあ新学部はどういった学部なのかという話をしまして、最後は感謝で結びたいということでございます。

まずは、本日このような機会を設けていただきまして大変ありがとうございます。なかなか直接議会に説明する、そういった機会がございませんでしたので、非常によい機会だと認識しております。

本日は、まずこの新学部をなぜ都心に立地させたいのかというお話と、そしてそのための設置条件、これを説明いたしまして、回答できる範囲で応答したいと考えております。それは、基本的に立地の場所がまだ決定されておらず、基本設計にも入っておりませんので、どれくらいの予算がかかって、それから、どれくらいの効果が出るかというのが精密には現状では分からないというところがあります。ですから、概算で、分かる範囲で答えていきたいと考えております。

とはいえ、この新事業は国からの補助事業を利用しておりまして、それには時間的な制限がございます。分かりやすく言えば、今は黄色信号がともっている状態です。実は既に学部開設を１年遅らせておりまして、これはこの間の申請を行った全国の大学の中でも第１号という状況です。そして、もしこれ以降、設計や建設にかかれないと、補助金を返還するということになりまして、これは恐らく大きな反響が予想されます。ですので、できれば状況をよく御理解いただいて何とか御支援をいただきたいというのが本日の大きな趣旨になるかと考えております。

そしてまた、山口県で４つの大学、福岡市近郊で３つの大学が情報学部等の組織再編をいたしまして、このまま放っておきますと本市から情報人材が確実にこういった地域に流出するということが考えられます。これは、主要な基幹産業である情報産業がダメージを受けることになりますので、ぜひこのあたりの将来も御理解いただければと考えているところでございます。

それでは、説明をしていきたいと思いますが、まずは最近の北九州市立大学というのはどうなっているんだろうかというところから入っていきたいと思います。

独立の大学法人になる前と後ではかなり北九州市立大学の位置づけが変わっておりまして、まず学生数でいいますと6,700名、これは大学院を入れてです。公立大学は100校ありますが、３番目の規模になっております。そして、ＴＨＥの大学ランキングで見ますと、日本には今800の大学がございますが、北九州市立大学は大体80番前後ですので、上位10％のところに位置づけされていると。そしてまた、最近、高校生20万人に調査した結果、公立大学の人気ランキングでは５番目と、つまり100校あるうちの５番目の人気になっていると。それを受けて、一般選抜志願の倍率も昨年度は5.4倍と、これは国公立大が4.3倍ですから１倍以上高いと、こういった人気大学に今なっているということでございます。そして、地域貢献度ランキングも800大学のうち17位で、地域にも非常に関わりを持っている大学であるということが言えるかと思います。こういった大学の状況でございます。

そして次に、地元就職の話に移っていきたいんですが、これが新学部との兼ね合いがございまして、あと５分で説明しますので、耐えていただければと思います。

地元就職ですが、まず就職率そのものは99.3％ということで、希望すれば就職できる状況になっていると。大学の入り口と出口を見ますと、合格者に占める北九州市内の高校生の比率は大体２割です。そして、出口の地元就職をする比率がこれも２割ですので、大学としてはいわゆるダム機能を果たしているんです。２割は確実に地元に残していると。

特にカリキュラムを見ましても、地域系科目を12科目用意しまして、シビックプライドを醸成するために地元の企業を何度も刷り込んでいるというのが実態としてあるということでございます。したがって、在学生については、２割を超えるような数の学生が地元に残りたいというようなところを、ゼミ、そういったところでも話を伺っております。

じゃあ何でそういう人が残れないのかといいますと、大きな原因が２つあって、１つは、一番人気がある情報系企業が不足しているという点、あるいは職種が足りないと。で、福岡とか東京に就職しているんですね。それから、職種のミスマッチ。情報系の企業に就職したいけれどもそれがないと。それは一例ですが、先般ではコロナのために、キャビンアテンダントになりたいのになれないとか、そういったミスマッチがあるということでございます。

したがって、これを解決するためには、市内企業のＤＸ化を図って情報人材のニーズを

高める、それから、起業家を育成していくアントレプレナーシップ、これを育成して、スタートアップで企業の数そのものを増やしていく、こういった取組をすることによって市内の雇用を増やし、人口定着に寄与させていきたいということでございます。特に、現代のＡＩ化、それから情報化社会においては、非常に重要なポイントかと思います。

それでは、じゃあ新学部はどういった内容であるかというところを、お手元に資料はございますでしょうか、御説明していきたいと思います。

新学部は名称が情報イノベーション学部、学科は１つが情報エンジニアリング学科、68名、これは現在の情報システム工学科を改組する形で、ＡＩとかロボティクスを強化するということです。それからもう一つが、文理融合型の共創社会システム学科、これはグリーントランスフォーメーション、ＧＸ推進や地域社会の課題解決に寄与するデジタル人材を育成していくということでございます。両者にまたがって、ＡＩ教育、それから情報倫理、それから地域科目、こういったことを実施していきます。そして、この新学部は、実践的なデータ駆動型の情報人材を育成していくというところを一番大きな育成人材像として掲げながら取り組んでいきたいと考えております。

この特色としては、まず第１番目に、実際のビジネス課題を基に行う課題解決型学習、ＰＢＬをやらせると、そして、このＰＢＬにうってつけなのが都心部であるということでございます。そして、学生が長期で日常業務に就いて専門的な職業経験を積むジョブ型、長期のインターンシップを行う。これは、市内に最近、ＩＢＭとか三菱総研等、情報産業が集積してきております。こういったところに、例えば空いている時間に行って業務をやる、そして授業に戻ってくると、そういったことも都心部では可能になってくると。したがって、長期でインターンシップができるということになってまいります。そして、そういった企業に協力を仰ぎながら、アントレプレナーシップ教育を図っていくと。そしてさらには、地元企業の技術者や専門家による講義を行いまして、実践的な教育内容を行っていく。特にＡＩとかロボティクスとかエネルギー環境学であるとか、ビッグデータ分析、こういったところに力を入れていきたいと考えております。そしてまた、教員は、市内企業に人材供給を行うだけではなくて、企業との共同研究、さらには技術に関わるコンサルティング、こういったことも行っていくということでございます。

そして、両者合わせまして118名、学士が情報工学ということですが、当初は令和８年予定でしたけれども、１年延期しましたので、令和９年４月予定で、大学の総収容定員は変更なしで、各学部の定員を削減してこちらに充てると、そして、文系から理系に転換することによって文理融合を促進していくということを考えております。

ということで、新学部の設置運営に関しましては、今日、できる範囲で回答しながら、最終的には特段の配慮と御支援を賜りますようによろしくお願いしたいと思います。私からは以上です。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長、ありがとうございました。

それでは、質疑応答を行います。なお、委員からの質問は、簡潔、明瞭にお願いいたします。また、柳井学長におかれましては、可能な範囲で御回答をお願いいたします。

それでは、御質問ありませんか。大石委員。

○委員（大石正信君）柳井学長、今日はおいでいただきまして誠にありがとうございます。

柳井学長の経歴、専門分野を見ますと、産業立地論、地域経済論、経済地理学、私も大学で経済学を学んできたんですけども、今、北九州の大きな課題は人口減少で、私は人口減少の大きな原因は、賃金の低下だとか社会保障の充実、市民所得の低下が大きな原因と考えていますけども、人口減少の原因、それと、どのような形で有効な対策を取ったらいいのか、先生の考え方をぜひ教えていただきたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）これは一つの考え方ということで受け取っていただければ結構かと思いますが、要約すれば、一つは自然増、それからもう一つは社会増、この２つに尽きるかと思っております。

自然増につきましては、一番の根本的なところは出生率の増加というところがありますので、それについてはやはり社会保障をきちんとやって子育てを支援していくと。それから、非常に大事な最近のポイントとしては、ジェンダーギャップを解消して女性の働きやすい環境をつくっていくと、それが非常にポイントだと思っております。

それから、もう一つの社会増につきましては、これはもう雇用の確保に尽きるかと思います。新しい学部もこの方向性で取り組んでおります。特に北九州の場合には労働力人口比率が低いという問題点がありますので、働きやすい環境をつくりながら、そしてまた、人手不足を、ＤＸを活用しながら人員を必要な分野に回せるような余力を増やしていくと、そして、北九州市全体で所得を上げていくと、そして、それをまた社会保障であるとかインフラ整備に向けると、こういう循環をつくっていくことが大変大事だと考えております。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）大枠は私の考え方と一緒で、北九州は今度の新ビジョンでＧＤＰ４兆円を目標に掲げています。これまで３兆8,000億円ぐらいしかいっていないんですけども、ＧＤＰの６割が家計消費と。それが消費税の増税だとかインボイスだとかで、年金や賃金が上がらない国になっている。だから、雇用も大事なんだけど、そこで働く人たちの賃金とか労働条件だとかそういうあたりも。新しい情報イノベーション学部をつくって人材を確保していくというのは大事だと思うんですけど、市民の所得とかそういうのは一つのポイントになるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）おっしゃるとおりだと思います。実は、当大学のゼミ生なんかに

も話を聞きますと、例えばサービス業に就きたいと、あるいは、医療であるとか福祉であるとかそういったものに就きたいと。ところが、賃金の差を見ると福岡のほうが高いって言うんですね。それで向こうに流出すると。同じような仕事をしても向こうのほうが時給がいいんですよということで、出ていってしまうんですね。そういった意味では、やはり北九州市においても、特に地元の基盤的な産業に当たりますけども、教育とか医療とか福祉とか看護であるとか、そういったところの賃金を上げていく努力というのが非常に必要だと考えております。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）北九州はこれまで製造業が中心であって、しかし今、ケア労働者と言われているような医療や介護や保育所とか障害者施設で働くケア労働者も非常に増えてきているということで、いかに市民の所得を増やして、子育て環境、働きやすい環境をつくっていくか、企業誘致も大事なんですけど、そういうあたりのポイントも非常に大事なことだと思っておられるということですね。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）はい。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）まだ時間はありますね。

新学部との関係で、それは企業の人材確保ということもあるんだけど、ＴＳＭＣ社ができて、これから半導体とかという形で、北九州はそういう情報との関係ではこういう町にしたらいいとかというのが新学部との関係であるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）多分、この点で１時間半全部終わるんじゃないかと思うんですけども、新しい学部、つまり情報系人材との兼ね合いですが、実はさっきおっしゃっていました教育であるとか医療、福祉とか看護であるとか、そういった産業の労働生産性というのは統計データを見ると北九州市は若干低いんですね。そういったところに、逆にこういった情報人材を投入しながら情報化していって労働生産性を上げるということですね。そして、労働生産を上げるというのは、つまりそれを所得に回していくと、そうすることによって福岡や東京への人口流出というのが止まるんじゃないかと考えております。それはかなりマクロレベルの話ですので、ただやっぱりミクロレベルと、個々の生活がありますので、そこはやっぱり補助していく必要はあるかなと考えております。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）ありがとうございました。市民所得の向上というのが人口減少を食い止めていく大きなものになっていくんだと、今度の新学部の設立もそれに大きく寄与するものだということを理解しました。ありがとうございました。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。岡本委員。

○委員（岡本義之君）ありがとうございます。

先ほど新学部の特色等についてお話しいただきましたが、この学部を設置して、学長が思われる、どれぐらいの期間を経て学部設置の効果を上げていきたいとか、もしくは効果が出てくるんじゃないかという思いがあれば教えていただきたいのと、学部の設置場所なんですが、いろいろマスコミ等で報道もありましたが、１年遅れていることも踏まえて、これまで選定に向けての苦労や不安要素等があれば教えていただきたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）苦労はずっと現在も続いておりますけども、まず効果のスパンなんですが、効果が現れるのは、効果も２つあって、短期的なものと長期的なものがあるかと思います。短期的なものとしては、学生の学力の向上というのが一番大学としてはしなければならないことで、それが４年後に卒業ということですから、最低４年は直接的な学力向上に伴う効果というのは出ないかなと思います。ただ、その４年の間に例えば地域活動をしたり地域課題の解決をＰＢＬでやっていくのであれば、そういったものの成果は年々上がっていくだろうと考えております。

それとあとは、経済的な効果もあるだろうと考えております。それは、学生やそれから教員であるとか職員であるとか、あるいは、学会を開催すれば全国から教員が来ますし、それから、学生には当然保護者もいますので、保護者が来るということも考えられますし、いろんな人が交流していくわけなんですね。それに基づく経済効果というのは直接的にやっぱりあると思います。そういった短期と長期というのが絡み合う形で、毎年毎年効果というものはあるのではないかと見ているところでございます。

それから、苦労については、１時間半では足りないぐらいだと思いますけども、やっぱり大学の本分は何かということを考えて、それとの兼ね合いで苦労があるかと思います。やはり教育とそれから研究、それから社会貢献という３つの分野でそれぞれ苦労がありまして、教育についてはカリキュラムを組んでいくということですね。そしてまた、ほかの学部との定員の再編もございましたので、ほかの学部との協力をお願いすることであるとか、それからあとは教員の確保、実はこれが一番各大学が苦労しているところでございまして、幸い北九州市立大学の場合には情報システム工学科という母体がございますので、それをベースにして新しいカリキュラムを今組んでいるということでございます。それはそれなりの苦労があるということでございます。

それから、社会貢献につきましては、これは立地場所との兼ね合いがあるんですけども、都心部で立地できれば、周辺の企業と連携関係を結んでいきたいと考えております。それはそれで、やはりいろんな手間暇がかかるだろうと。ひびきのでもそれは可能かとは思いますけれども、ただ、教育効果はかなり差が出るかなと考えております。やっぱり長期の

インターンシップ、ジョブ型インターンシップというのはひびきのの場合はかなり制限が出てきますし、それから大きいのは、実は今、中学とか高校で教員が足りていないんですね。その割には共通テストで情報系科目が課されるという状況になってきておりますので、ここにどういうふうに人材を供給するかというのは、非常に各大学、頭の痛いところがございます。そういった点では、都心部に立地できれば北方との連携が取りやすくて、そういった形で教員を供給できるわけですね。そのあたりのカリキュラム、教職科目の組合せも現在ちょっと苦労しているところです。

それからあと、研究につきましては、共同研究をやっていかなきゃならなくて、そこについてはこれから関係団体、例えば商工会議所であるとかいろんなところと連携しなければならないかなと、次の苦労として多分出てくるかと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）岡本委員。

○委員（岡本義之君）詳しく分かりやすく御説明いただきましてありがとうございます。

特に、都心部にすることによって教育の効果に差が出るというお話がございました。

１つだけ要望なんですけど、私は議会の中でも、これから大事なのはいろんな情報を分析する力、データ分析能力というのが非常に大事になってくる中で、新しく設置される学部の中でそういった人材もぜひ築いていっていただきたいということを要望しておきたいと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。成重委員。

○委員（成重正丈君）今日はありがとうございます。私からは人口増についてお聞きしたいと思います。

先ほども学長からるる説明いただきまして、どうしたら人口増になるというのは大体もう分かったんですけども、今、人口はもう90万人に迫ろうとしていまして、これを100万人までというのはなかなかの数だと思うんですよね。それで、今までずっと学長は、昨年も市政変革推進会議とかで座長をされて、いろんな御意見を聞いてきたと思うんですが、地元の有識者の方々から聞いた人口増についてお教え願いたいと思います。

それから、定住・移住なんですけども、情報イノベーション学部の設置について、最終的には定員472名になると思うんですが、今度、10年後とか20年後とかにこの方々が卒業されて地元就職を勝ち取ろうとすると、やっぱり大きな企業が要るんじゃないかなと思うんですけども、その辺の考え方もお聞きしたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）地元有識者の話につきましては、議事録等にもかなり載っているとは思いますけれども、全体の総論といたしましては、一番根っこのところにシビックプライドといいますか、市民としての誇りをきちんと持たせるべきだというのがあったかと思います。つまり、就職するときに同じような企業が複数あったときに、じゃあ何が決め

手になるかというと、やっぱり郷土に対する愛着であるとか誇りであるとか、それが利いてくるんだと思うんですね。そういうことを何人かの方がおっしゃっていたと思います。

あとは、もうちょっとリアリスティックに、きちんと企業誘致をして、最後の質問かと思いますけども、雇用の場を確保してそこで所得を上げるということ、正論だと思いますけど、そういったことをおっしゃられる方もいたかと思います。あと、いろんな政策として、インフラの整備の仕方を少し順序立てて、きちんと使い勝手のいい町にしていくということをおっしゃられる方もいたということですね。そこはまた議事録を参考にしていただければと思います。

それから、大手企業については、これは要ると思います。ただ、現在は、これは会議でも皆さん認識されておったんですけども、何分やっぱり工業用地の問題があって、大手企業を誘致できるような余地がないというのが非常にあったかと思います。これは市の当局も認識をかなり持たれていて、やっぱり用地の確保というのは最優先事項であるという発言があったかと思います。それをどこに確保するかというのは非常に重要な問題で、例えば交通の不便なところに確保してもあまり意味がございませんので、そういったアクセス性であるとか、働く人が集まりやすい場所であるとか、それからまた、一定の面積になっている、これは当大学の新学部もそうですけども、面積の問題等、いろんな条件をクリアできるような形で用意してあげるということですね。

ただ、北九州市の場合は、企業誘致に関して物すごい熱意を持って当たられていますので、大抵の大企業のときには必ずいい線まで行っているんですね。なので、あともう一押しのところでそういった問題をクリアできれば、これは可能なんじゃないかと私は見ているところでございます。

○委員長（佐藤栄作君）成重委員。

○委員（成重正丈君）率直にお聞きしたいんですけども、柳井学長のイメージで、北九州市のどこに大きな企業を誘致できるようなところがあると思われますか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）大きい企業というのはいかなるものかというのがまずあると思います。つまり、従業員規模が大きくても物すごく稼いでいる会社もありますし、それから、生産性はあまり高くないんですけど人数がたくさんいるようなところもありますし、それはその場所に応じるんじゃないかなと、どちらでもいいかと思います。ただあまりピンポイントでお話をしますとハレーションがありますので言えないんですけども、そういう機会があったらお話はできるかなとは思います。

○委員長（佐藤栄作君）成重委員。

○委員（成重正丈君）とにかく人が増えるように、今日学長のお話を聞いて勉強になりましたので、またよろしくお願いします。ありがとうございました。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）じゃあ質問させていただきます。お世話になります。

私も人口増対策についてなんですけども、先ほど学長から、市内企業の就職に向けた取組なり考え方をお話しいただいたと思います。市内企業に大体２割の学生が就職するということなんですけど、これに甘んじることなく、さらに上げていく取組も必要だと私は思っておりまして、今年、熊本大学に新しい学部ができたと思います。それはＴＳＭＣが来ることを前提にした、いわゆる半導体の学部だったと思うんですけども、北九州市も今、新しい基本構想、基本計画の中で、またその前から、物流産業拠点ということを北九州は目指しています。それから、洋上風力発電、これはエネルギー産業として育成していこうということなんですが、そういったところで、北九州で今後増えるであろう雇用先、企業に向けたところに人材育成をしていくことが市内就職に結びつくと思っていますが、その辺についてのお考えを１つお伺いしたいと思います。

あと、設置場所について、都心部のというお話でございましたけども、あえて質問で出していますので、北方のキャンパス、それからひびきののキャンパス、そして小倉都心部での設置、その場合のメリット、デメリット、それぞれについてあればお聞かせいただきたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）産業としては、物流産業、洋上風力発電、それからもちろんリサイクルということで、本市がかなり力を入れている分野だと思いますね。ここは雇用が増えるだろうというのは見ております。多分そのとおりなんだろうと。ただ、その各産業をどういうふうに使うのかというのはまた別の話で、実は洋上風力発電ですと、例えば中国であるとか、それからヨーロッパ、ドイツとかオランダは非常に強力な企業を持っていて、国際市場で戦うというのはちょっと厳しいかなというところがあるんですね。逆に、洋上風力発電をきちんと産業として立ち上げたときに、それを例えば域内の電力に地産地消で生かしていくと。そしてそれを基にして企業誘致を進める、安い電力を活用して大手企業を引っ張ってきたり、企業を誘致していくと。そういう産業自体の自立の話とそれを活用した関連産業の立ち上げというものを分けて考えたほうがいいかなとは思っております。

あとは、物流産業は、北九州の中でもかなり有望な産業ではないかなと考えておりまして、ただ、これも先ほどの工場用地と同じで、施設を建てる場所がもういっぱいいっぱいになっているんですね。どことは言えませんけども、特にインターの周辺でまだ十分活用されていないところもありますので、そういったところを今後どういうふうに市の産業政策の中で位置づけて整備していくのかというのが非常に大事かと考えております。

それからあと、リサイクル産業は歴史がありますけども、相変わらずこれは重要で、特に最近はバッテリー産業が非常に重要な産業になってきておりまして、自動車それから家

電製品を問わず、周辺のモビリティーもそうですし、このバッテリー産業そのものを立ち上げるというのは難しいんですけども、これをリサイクルできる企業とか都市というのがあまりないんですね。だから、これはそういった産業や企業を誘致する立地要因になるんですね。だから、そういったところをむしろきちんと宣伝しながら、バッテリーを製造して使用して回収してリサイクルして回せるというようなところを出しながら、そういったバッテリー産業、行く行くは本体を誘致してくるというやり方をしていくことが必要だと思います。

ですから、今お話があった物流とか洋上風力とかリサイクル産業というのは、そのもの単体での立ち上げというよりは、それを活用したいろんな政策を考えていくというところがポイントなのではないかと思うということでございます。最初の質問はそういったところでよろしいですか。

何か授業をしているみたいで、すみません。

あと、メリット、デメリットですけども、まずメリット、デメリットは挙げればいっぱいあります。ひびきのにあってもメリット、デメリットはあるし、都心であってもメリット、デメリットはあります。要は、その中でどの要因が一番重要なのか、どれが利いてくるかというところなんだろうと思います。特に我々が意識しているのは、都心に立地した場合になぜいいかというメリットに非常に着目したというところでございまして、それは先ほど教育のところでもお話ししましたけども、特にカリキュラムをつくっていくときに企業と連携しながら非常に実践的な教育ができるというところが、これがまず大きいというのがあるんですね。これがひびきのですと、往復だけで１時間半以上かかりますので、下手したら待ち合わせて２時間かかると、なかなかそれができづらいというのはあります。努力はしているんですけども、限界があるんですね。それが都心だと非常にやりやすいと。

そして、都心立地を考えたときに、これは経済地理学の考え方なんですけども、実は校舎の特性というのがございまして、今ひびきのでやっております、例えば機械とか建築とか化学とかいったものは、いわゆる装置型の学部でございまして、実験とか実証をするときに非常に大きなスペースが必要になってくるんですね。ですから、これを都心に持ってくるというのはかなり至難の業です。ところが、情報学部というのは、これはほかの学部も共通ですけども、簡単に言えばオフィスで済むんですね。ただ、教育施設ですから、例えばこういった採光が必要であるとか、情報関係ですので、きちんとした情報通信網が整備されているとか、それは必要なんですけども、スペース自体はそんなに巨大なものは要らないんですね。ですから、立地の移動性で見ると、工学部の中ですけど、全く違っているんです。情報系学部は立地が非常に移動しやすい。機械系とか建築系は移動しづらいんです。土地に固着的なんですね。そういったところもあって、情報学部はもともと移動させられるっていうところがあったと。

かつ、情報学部というのはいわゆるマーケットオリエンテッドなんですね。市場志向型の学部でして、情報系企業があると非常に学問の水準が上がるんです。そういった点では、企業のそばにあるというのは多大なメリットがあるんですね。そういった意味で、ＩＴ企業が集積している小倉都心部、小倉南北だけで市内の情報産業の50％弱が立地していますので、そこに何としても立地したいということにつながっているということでございます。

そして、それ以外のメリットとしては現場で、中小企業、これも小倉に集中していますけども、そこの中小企業に入っていって現場で課題を解決していくと、そういうフィールドスタディーがしやすくなる。それから、先ほど申し述べた長期インターンシップが可能であったり、企業が距離が近いとすぐ教えに来れるんですね。そういった点で、授業の幅が広がると。いろんな実践的な授業がしやすくなると。そしてまた、企業が目先にいますから、地元就職するときに行きやすいですね。そして、ふだんから行ったり見たりしていますので、働くときのイメージが非常に湧きやすい。だから地元就職率も上がるんじゃないかなというふうに見ています。そしてあとは、通学が便利であるとか、先ほどお話ししたように教職免許は北方と連携が取りやすい、それから、北方の地域活動とも連携が取りやすい、そういったところがあるというのがメリットとしてかなり強いというところで注目したということでございます。

○委員長（佐藤栄作君）すみません、時間に限りがありますので、次の方に移らせていただいてもいいですか。大体１人８分を目安にしているんですけれども。

いいですか。村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）１つだけ。

学長が考える都心部の設置で、都心部って大体どの辺りぐらいまでイメージされていますか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）小倉駅周辺から旦過ぐらいで、せいぜい行って三萩野ぐらいというところですね。それはつまり企業の立地の密度で見ているんですね。ですから、旦過辺りがぎりぎりかなという感じで見ているということですね。

○委員長（佐藤栄作君）村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）分かりました。ありがとうございました。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。戸町委員。

○委員（戸町武弘君）今日はどうもありがとうございます。

北九州市の課題のほとんどは人口問題ではないかなと考えております。この人口問題を解決すれば、意外と北九州というのは本当に住みやすくて、いい町になっていくだろうと。その中で、北九州市立大学もその中の一つのピースなわけですが、先ほど学長から、人気が５番目ということで、本当に大学の努力と手腕に敬意を表したいと思います。

○参考人（柳井雅人氏）ありがとうございます。

○委員（戸町武弘君）そこで、今回新学部をつくるということなんですけども、やはり新学部をつくるということは、当然ながら学生にとって、よい大学、よい学部にしなければならないと考えております。自分も昔、大学の教員をやっていたんですけども、学生にどんな教育、体験というか経験ができるか、これが非常に重要で、先ほどの話では都心部につくれば長期型のインターンシップが可能であるということで、これはすごく評価が高いと思っております。

そこで、昨今、新聞紙上で旦過の話とかが出てきているんですけども、実際自分の大学はビルの中だったんです。ビルの中で、キャンパスがなかったんですよね。学生にとってのキャンパスの必要性を、学長自身はどのように考えられているでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）最近、例えば中央大学が茗荷谷に法学部を移したり、それから、古いところでは様々な大学が都心部にキャンパスを構えるというふうになっております。それぞれ押しなべて、広いグラウンドであるとか、いろんな福利厚生施設は周辺のものを活用するという形で当然併設されていないんですね。それは実は、文部科学省の過去の通知になりますけれども、体育が必修から外れたというのが一つ大きなところがありまして、それ以降、かなりキャンパスの都心移転が進んできている印象があるんですね。

つまり、学生にとっての重要なキャンパスの要素は何かということを考えたときに、現状の規定その他を眺めると、体育も重要なんですけど、それだけではないんだろう思います。要は、正課のカリキュラム、その正課のカリキュラムに基づく学びの質がどうなのかというところですね。それは学生に、なぜそこの大学を選ぶんですかというアンケートを取ると、まず第１番目に上がってくるのがカリキュラム等の学びなんですね。それが自分が学ぼうとしている内容にふさわしいのか、合っているのかどうか、そこをまず確認して受験してくるんですね。そして、次に気にしているのが、立地がどうなのかと。あと、３番目か４番目に、親がどう思うかというのが来るんですけども、立地と学びというのはとても大事でして、そういった点では、今回の新学部というのはそこの要素は満たしているかなと私は考えているということでございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）確かにそうなのかもしれないんですけども、やはり学生から見たときに、学生同士でディスカッションできる場所とか、例えば自分は東京の大学だったんですけど、立教大学とか明治大学とか、明治はあれでしたけども、立教大学とか青山学院大学とかはキャンパスがあって、すごく楽しそうだったんですよ。だから、学生たちにもそういう経験をさせてやりたいなと思うんですけども、今回もしつくるのであればその辺もぜひ考慮をしてもらいたい。大学が北九州にどんなメリットを出せるかというのも必要な

んでしょうけども、しかし、やはり主体は大学生じゃないのかなと。大学生にとって、よりよい教育を、北九州市立大学がどのように提供するのかというのが一番重要になってくるんだと思います。

最後に、現在サテライトキャンパスを持たれていますよね。このサテライトキャンパスに対して、学生の評価はどうでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）まず、前者ですけども、交流スペースはできるだけつくっていこうというようなことでございまして、あともう一つは、工学部の特殊性なんですけれども、研究室単位で動いているんですね。それを研究室と呼んでいるんですけども、それ以外に、教員が研究する教員研究室というのがございまして、それは両方そろえるつもりでおります。それに加えて、先ほどおっしゃられていた交流スペースもちゃんと確保して、そこの中で学生がいろんなディスカッションをしたり、いろんなプロジェクトができるような形にしていきたいと考えております。

それから、サテライトキャンパスですが、これは通っていらっしゃるのは、現状では小倉駅のビジネススクール、つまり社会人の方ですけれども、非常に場所がいいということで、通いやすいというような評価をいただいております。ビジネススクールは始業時間をちょっと遅らせておりまして、一般の働いている方が受講しやすいような配慮をしているということで、非常にキャンパスとしては高評価を得ているところでございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）ありがとうございました。

○委員長（佐藤栄作君）いいですか。ほかに。井上委員。

○委員（井上純子君）柳井学長、まずはありがとうございます。

私から何点か質問させていただきたいと思うんですが、多くの委員の皆様がこの新学部の魅力だったり、都心部の設置についての必要性はいろいろと質問されていますので、またちょっと違った観点で教えていただきたいと思います。答えられる範囲で答えていただければと思うんですけれども、昨今の少子化が加速する厳しい現状を受けて質問させていただきたいと思います。

今現在でも、高等教育におきましては少子化のあおりを受けていまして、定員割れを防ぐために、定員を削減したり、多くの学校が筆記試験ではない推薦枠を大幅に増やす、生徒の青田刈りの状況も出てきていると思っています。出生数でいうと、現在の大学に入学する年齢、例えば2005年生まれであれば当時約106万人いたところ、昨年2023年は約75万人ということで、子供の総数が２割以上減っているということは明らかであります。この少子化を受けまして、地方の大学がとうたされているのではないかとまで言われているんですけれども、地方の大学がとうたされれば地方の人口減少が加速していくため、地元大学

の生き残りは重要な課題だと認識しています。

そのような中で、気になるのは、今回の新学部設置に関しまして、１学年が100人程度と聞いているんですけれども、これは大学としての生徒数の増員ではなく、大学内の既存学部からの定員調整もあっての新学部であると聞いておりますので、大学の人数、市内学生の人数に変更はないと理解しております。その条件の中で、新学部の設置にこだわる、ほかの各部から転用したり、学校内の人数は変わらないということで、あえてこの学部にかける思いという点を、地元定着率は今２割程度で、下関市立大学よりは高いといってもまだまだ低いのかなという印象を受けているわけなんですけれども、できればこの地元定着率の増加、また、企業誘致に向けての人材育成としての観点で改めてお答えいただけると助かります。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）文系とそれから工学部の定員を削減して、その分を新学部にという流れをつくっておりますが、実は学部に投げかけたときの投げかけ方が違っていまして、新学部をつくりますので削ってくださいとは言っていないんですね。それはまさに井上委員がおっしゃったように、18歳人口が減少していて、大学としては非常に経営の危機感をどこも持っていると。そういった意味で、各学部の皆さんに定員はこのままでいいですかという投げ方をしたんですね。その結果として、この人の減り方を見るとどうも危ないかもしれないので、少し減らしていきましょうということで出していただいた数字がこの数字になっていて、その数字を基に、ほぼほぼ純増に当たる共創社会システム学科の50名という数字が出てきたということなんですね。

冒頭でお話をしたように、まだまだ北九州市立大学は人気があるので、まだ大丈夫という感じなんですけども、市立大学の４割近くは定員割れしているというようなことで、そろそろとうたも始まっているという状況ですので、各教員の皆さんもかなり危機感を持っていて、このぐらいはやっぱり削ったほうがいいだろうという議論をかなりしているみたいです。それを受け取ったということですね。

そしてまた、この新学部は、文系から理系への転換が大体50名近いということなんですけども、目指しているのは文理融合型でして、文系の学部にも門戸を開いていこうと思っているんですね。その中でシナジー効果といいますか、それも狙っていくと。そういった意味で、都心部立地を図りながら北方と連携をしていきたいという狙いがあるんですね。この新学部をぜひ成功させて、あわせて、北方とか、それからもちろんひびきのもグレードアップしていきたいと考えているということでございます。

それから、地元定着につきましては、20％が高いか低いかというのは議論があるかと思いますけども、全国から学生を集めている大学というのは軒並み地元定着率が悪いんですね。それは多分、九州工業大学とか九州大学を見ていただければ分かると思いますけども、

全国から来て全国に帰っているというところがございますので、そういった意味では、北九州市立大学は例えば地域推薦という枠を設けていて、地域の高校を優先に取っているんですね。そこできちんと数を確保して、地元に定着してもらうというようなことをやっております。

あと、数は把握していないんですけども、出ていっても戻ってくる学生が結構いまして、そういう学生がたまにふらっと大学に来て、いろんな昔話をしながら、今度こちらの北九州勤務になりましたみたいな、実はそういう人も捨て難いといいますか、一遍外の世界を見て戻ってきていますので、非常に視野が広いんですね。だから、そういう人も大切にしていきたいと考えております。答えになっていますでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）御丁寧にありがとうございます。子供が減る中で、いかに吸引力というのが、町としても学校としても企業としても、全てがこの町の要素として必要になってくると思います。

関連でもう一つ教えていただきたいんですけれども、持続的な大学運営の観点で教えていただきたいと思うんですが、現在、市から毎年度約20億円近い運営費の負担をさせてもらっている状況です。もちろんこれは地方交付税措置されているものですから、市から負担させてもらっているんですが、今回、生徒数が増えないということは授業料の収入が増えることがないため、今回の新学部は、生徒数は変わらないけれども維持する施設が増えるという、ランニングが純増しているのではないかという不安を感じているんですけれども、先ほど町の財政について、コンパクトシティーが必要だと触れていただいたように、長期で見て大学運営のランニングをどのように工夫されていくのか、もしお考えがあれば教えていただければと思います。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）承知しました。運営費交付金の基になるのは地方交付税になりますけども、地方交付税を算定するときの基準財政需要額というのがございまして、その算定の学生は、実は学部によって１人当たりが違うんですね。医療系がやっぱり一番高いんですが、文系はすごく安いんですね。それが文系を理系に転換するので、実は算定額が上がりまして、運営費交付金が増加することになります。実際にまだ大学が始まっていませんので、幾ら幾ら、何円というのはなかなか言いづらいんですけども、概算で大体1.7億円ぐらいは行くかなという感じですね。それは正確ではありませんが、その額があると試算したところでは、一応ランニングコストは賄えるということになっております。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）もう一つ答えていただければと思うんですけれども、少子化だけではなくて、無償化の影響も出てくるのではないかと思っています。現在、国としても、第

３子以上がいる多産家庭の支援として無償化を発表されていまして、我が家もまさに対象になるということで、いろいろと考えさせられる、当事者意識を持っているんですけれども、独自で無償化を進める自治体も出てきているようです。また、その影響で、金額の高い民間私学も無償化となっていけば、費用面でいうと選択肢が広がるという、子供から見ればすばらしいメリットがあるんですけれども、一方で、公立の志望者が減っていくのではないかということも懸念しています。

そこで、今後、大学がとうたされて無償化が進む未来におきまして、私立ではなく公立の北九州市立大学が生き残っていく選択という、その意識、差別化というような戦略がもしあれば教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）御指摘の点は非常に重要なところで、例えば大阪とかは無償化していて、もう私は子育てが終わったのでちょっと残念みたいな感じはあるんですけども、自治体が乗り出していくというのは、それは市の当局もございますので、私からはコメントは差し控えますけども、大学としては、恐らくその部分に関しては、会計上は右から左ということですので、経営にはそこまで影響はないかなと考えております。

公立大学への影響ですけども、大阪のような状況になれば公立大学には順風になる可能性がありますので、逆に私学が厳しくなる可能性もあるかなということですね。実はその検証というのはまだ出ていないので、結果がどうかというのはまだ分からないです。

そういった中で、競争力強化をどうするんですか、差別化をどうしますかということですが、それはもうカリキュラムに尽きると思いますね。いいカリキュラムをそろえて、そして、それによって各学生がどれだけ成長できるのかというところですね。それをやっぱり高校生は見ているんですね。あそこに行くと４年後には自分はああなれるんだと、いろんなスキルがついているんだと、それを意外ときちんと見ていますので、オーソドックスな正攻法ですけども、いいカリキュラムをそろえてあげるというのが一番大事だと思っていて、そこが最大の差別化だと思います。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）御丁寧にありがとうございます。今後、とうたで生き残りの厳しい現状に対して差別化して、いいカリキュラムをつくっていくということで、新学部が重要だと認識しました。ありがとうございました。以上で終わります。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）日本維新の会の篠原です。柳井学長、今日はありがとうございます。

先ほど、学部の魅力だったり、人口増に対する考え方とかをいろいろ勉強させていただきまして、全て賛同できるものだなと感じております。その中で、新学部についてお伺いしたいのは、今回、国の大学・高専機能強化支援事業に申請したということですが、その

申請をしたのが令和５年７月ぐらいですか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）申請は５月です。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）５月ですね。この５月に申請した段階で、設置場所というのはどのように考えられていたのかというのを教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）福岡県北九州市で出しました。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）分かりました。申請は北九州市として、北九州市内に置きますよというところで出したということですよね。

申請を出したのはそうですけども、新学部をつくるとなったときに、どこにキャンパスを置こうかということをノープランで出すというのはあり得ないのかなと思うんですが、この申請する段階で、よし、じゃあどこにキャンパスをつくろうかなという想定があっての申請だと思うんですけど、そのときはどのように考えられていたのか、教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）簡単に言えば、ひびきのか都心部かと。そして、その両者の共通項に関して申請書に書いたということですね。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）ということは、ひびきのも可能性としてあって、都心部でもいいなと、ひびきのでもいいなというところで、ずっと進んでいって、この前の３月に私たちは初めていろいろ説明を受けたんですけども、今検討している場所が何か所かというのは答えられないというふうに説明では受けたんですが、新学部をつくる上でどの辺につくれるかなという目ぼしいところというのは、場所は言えなかったら言えなくて結構なんですけども、何か所の候補があったかというのを教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）相手先があることですので、具体的にどこというのは多分言えないと思います。我々は昨年、公表されている情報を基に幾つかの場所を検討いたしました。それは正直そうです。ただ、並べた段階で、例えば教育施設として合わないとか、面積が足りないとか、そういうのでどんどん不適合の形ではじいていったんですね。その中で、最後に都心地区とひびきのが残っていったということです。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）ありがとうございます。

都心地区が残ったというのは、報道では旦過市場というふうに出ていたりしていますけ

ども、旦過市場が手を挙げてくれたというか要望書が出たということなんですが、旦過市場から要望書が出なかった場合、じゃあ候補としてはひびきのキャンパスしか残っていないという考え方でいいですか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）要望書が出なかった場合には、それはやっぱりお尋ねする可能性は、可能性ですよ、あくまでも。可能性としてはあったかなと思います。ただ、あのタイミングで旦過の組合の方々が要望書を出していただいたと、非常にうれしくて、大変感激いたしました。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）ありがとうございます。

要望書が出たことはいいと思うんですけども、やはりまだ形になっていないものでもありますし、セオリーとしては、新しいものをつくろうということよりは、今あるところにどこに入れるか、もしくは、御自身の北九州市立大学のキャンパスの敷地内でやるということが第一の選択肢のセオリーなんだと思うんですね。都心部で、実際に面積があるかどうか分からないですけども、ＡＩＭビルだったり、リバーウォークっていうのも選択肢としてはあるのかなと思うんですが、その辺も検討の場所に入っていた、そこを協議した、検討したというのはあるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）既存の施設ももちろん検討しました。でも、もうぱつんぱつんで、もういっぱいいっぱいな状況で、ちょっと無理かなというところですね。それとあとは、おっしゃられた施設については実際私も休日とかにふらっと行ってみましたけど、ちょっとこれは教育施設としては無理だなという感じでした。例えば採光であるとか、スペースの形であるとか、細切れになっているとかですね。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）ありがとうございます。

採光の件もいろいろあるとは聞いたんですけども、とはいえ、もし旦過につくるとなった場合、新しいものをつくらないといけないわけですよね。新しいものをつくると考えたら、やっぱり既存にあるもので何かを考える、改修をするということも全然選択肢としてはあっていいのかなと。この前、リバーウォークはまた大きな改修を始めるということも報道でありましたけども、リバーウォークを改修する予算とかも考えると、それはそれでまた可能性はあるんじゃないかなと思うんですが。何かお金がかからないような、先ほどもランニングコストのお話があり、1.7億円を賄えるという話だったんですけども、新学部をつくることによって北九州市が負担するような予算というのはないということでいいんですか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）まず最初に、リバーウォークをもうちょっと早めに検討していただいたら話はあったかもしれないですけど、要は令和９年開設に間に合わないんですね。今から改修して、それからいろんな調度をそろえてといいますと、もう間に合わないです。今あるところで間に合うところを残していったという形になっているかと思います。

それと、２つ目は費用の点です。費用ですが、ランニングについては多分、運営費交付金でいけるかなと思うんですが、初期投資については、正直なことを言うと、我々がその申請、申請から順々にお話ししますけど、最初は申請段階で20億円で申請をしたんですね。で、査定を向こうで、学位授与機構という文部科学省の委託を受けたところですけど、そこで査定をして18億円ということになりました。規定上は４分の３を国が負担して、４分の１は地元負担という規定になっているんですね。したがって、国は13億5,000万円出すと、これが我々が今握っている金額になります。それを投入するというのは間違いないと思います。

あとは、地元負担をどう考えるかというところでございまして、残りの４億5,000万円、これをできるだけ工費の工夫であるとか、それから工期の工夫であるとか、これは私は公共事業評価委員会の座長を10年ぐらいやっていましたので、そのたびごとに言っていることが自分に跳ね返っているんですけども、そういう工夫をしながら、できるだけ少ない金額で済むように取り計らっていきたいと考えているということでございます。

ただ、これは投げっ放しのものではなくて、市としての投資なんですね。それは市に人材という面と、それから直接的な経済効果であるとか、あわよくば人口増にも寄与できるというところがありますので、これは投資する価値があると個人的には思っております。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）じゃあ最後の質問にさせていただきたいんですが、都心部にできたらいろんな企業と連携も取れるとおっしゃっていたんですけども、具体的に連携連携といっても、ここの企業とこういうふうに連携するというのもまだないのかなと思うんですが、具体的に考えている連携、ひびきのキャンパスだったらできないけど、ここだったらできるという、都心部にあるからこそできる連携、それは今確証が取れているのかどうか。都心部につくれても今考えている連携が取れなかったら意味がなくなってくると思いますし、取ろうと思っている連携はどんなものなのか、それは本当に取れる連携なのかというのを教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）相手のあることですから、お名前は出せませんが、打診はしています。それで、打診ができない場合はどうするんですかということですが、打診が取れるように、ほかのところもしつこくやります。それで数を確保していくと、そういう考え方

で今はいるということです。複数の企業について今交渉はしているということでございます。もう既に働きかけはしていますね。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員、すみません、時間に限りがあるので、これで終わっていただいていいですか。

○委員（篠原研治君）分かりました。ありがとうございました。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）よろしくお願いいたします。娘３人が北九州市立大学で、今、最後の娘が大学２年で、お世話になっております。いつもありがとうございます。

私からも何点か端的にお伺いをいたします。

まず、都心部にこういった新学部ができるということで、新入生の確保はもちろんなんですけれども、北九州市立大学では今、社会人のリカレント教育にも大変力を入れられております。求人者向け、社会人向けということで、就職や就職支援のための大学リカレント教育プログラムのｅｖｅｒｉＧｏだとか、再就職のためのカリキュラムなどもやっていると思います。都心にまたＩＴとかＧＸに特化した学部ができるということで、社会人向けの再就職や人材確保、あと、人口増につなげるような社会貢献的な動きというのが広がる可能性があるのかどうかということをお伺いいたします。

あと、先ほど篠原委員から質問がありました、リバーウォーク北九州がもう少し早かったらそこを改修できたんじゃないかというお話が出ました。新しく更地に基本設計、実施設計をして建てるよりも、今ある例えばリバーウォーク北九州を改修するという、新たに建てるか改修するかというと、改修するほうが間に合わない理由を教えてください。

あと、学校自体の総定員数は変わらないんですけれども、文学部の人を削減するということで、令和９年１月から入試であります。ここで文学系の定員が削減されると思うんですが、どこをどれくらい削減していくのかというのはもうお決まりなんでしょうか。

以上３点、お願いします。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）まず、リカレント教育は引き続きやっていくと。で、ｅｖｅｒｉＧｏであるとかｉ－Ｄｅｓｉｇｎ、こういったものについては現状でも情報システム工学科の先生が関与されていて、それは多分継続されるということですので、引き続きやっていきます。ただ、これが人口増につながるかどうかというのは、まだ何段階、いろんな戦術が要るかと思いますので、そこはまだ回答はできないかなということですね。

それから、リバーウォークですけども、工期の問題はあるんですが、建設を通常ゼロから建てても工期が必要だというのは分かるんですけども、リバーウォークは側は多分変わらないと思いますので、もし教育施設としてリニューアルすれば、かなり大規模工事になるかなと。恐らく、新しいところに建てたほうが工期が短くなるのははっきりしているか

と思います。

それから、文系の削減ですね。文系というか、工学部も削減はしているんですけども、それは決まっています。ただ、公開はまだしておりませんので、まだそれは言えないかと思います。ただ、もう来月には多分ホームページ等で公表されると思います。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。

リカレント教育に対しては、市はＩＴを学び直して北九州で働こうという、人口増につなげるようなメッセージを発しております。でも、今の学長のお話では、まだ人口増という対策には至っていないということでありましたので、ここは今市内に住んでいる方々の再雇用だとか雇用につなげていただきたい。重要な役割を担っていらっしゃるというふうに期待をするところであります。

リバーウォークの改修が難しいということは分かりました。素人の感じでは、基本設計、実施設計をさらからやるよりも改修したほうが簡単なのかなと思ってしまうんですけども。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）結構リフォームは大変ですよ。家もそうですけど、全体リフォームというのは相当、足場も組み直したりして、結局建てたほうが早いみたいなのはありますよね。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）分かりました。そういうことで了解をいたしました。学部についても分かりました。

最後に１点なんですけども、新しいところが都心に建つと、食堂などが周辺にたくさんあるようなところが想定されると思います。学食ですと、ひびきのも北方も生協の学食がありますよね。食に特化した場所ということで、都心部を今想定して市も進めていこうとしているんですけれども、周辺のそういった店舗と学食との関係というか、学生に対する食の供給というのはどのようになさっていく予定なんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）まだ立地が決まったわけではないので何とも言えないんですけども、イフの話ですけど、もし決定すれば、そういったものは旦過の関係者の方々と協議をしていくことになるのかなという感じですね。まだ現状ではっきりとは。基本設計もやっていませんので。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）分かりました。ありがとうございます。

○委員長（佐藤栄作君）三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君）今日は本当に貴重なお時間をお取りいただきましてありがとうご

ざいます。私も卒業生ですので、今回の新しい学部に関しては応援をしております。

ただ、この間の経緯については、きちんとこういう形を本当はもっと早く持っていただきたかったというのが正直なところではございますけれど、今日、学長の思いを様々に聞かせていただいて、非常に有意義な時間だなと思っております。

私からの質問は、人口増加ということも含めて、北九州市立大学の魅力アップが今非常に求められていて、新しい学部ということなんですけれど、実際にこれから文理融合というところでいくと、どこの大学も文理融合を今からやろうとしているところが多いと思います。文系そのもの、これまで法学部とかそういったところは若干減っていくということではあるんですが、文理融合、こちらもしっかりとやっていかなければ、先ほど御質問があったように、これから北九州市立大学の魅力が高まっていかないと生徒が減ってしまうよというようなお話がございました。実際に、文系の魅力アップをどのように考えておられるのか、北九州市立大学全体の魅力アップという観点からもお尋ねしたいと思います。

それから、まさしく今出ましたけれど、福利厚生といいますか、通常であれば生協が学生にとっては非常に重要な部分なんですが、食堂の問題もそうだと思うんですね。今も出ましたけれど、そういったものをどのようにその場所で確保ができるのかということもお尋ねしたいと思います。

また、一般的にサークルは北九州市立大学でいえば北方キャンパスとひびきのキャンパスでやっているかと思うのですが、そういったものについてはどのように考えられるのかということ。

それからあと、さらにＩＴ、情報分野の学部であれば、今、ウェブデザインの学部というのが非常に求められているというか、市内でもウェブデザイナーがいないから博多に行ったりとか、もしくは東京に行くというような現状があります。今回、新しく情報系の学部を設置するに当たって、このウェブデザインについての考え方も併せてお聞かせをいただきたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君） 柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏） ４点にわたっているかと思います。

１点目は、文系の文理融合化ということですが、実は第４期の中期計画、市から中期目標をいただいて、それを実現するための計画をつくっておりますが、その中で、ＡＩ・データサイエンス教育の強化というところをうたっていまして、これにつきましては教養教育科目でこれを位置づけまして、全学部でこのデータサイエンスの授業を取ると。で、文部科学省に、このデータサイエンス教育のリテラシー部門の認可を昨年いただいたということでございます。今度は応用基礎の部分を申請するということで、文系におけるデータサイエンス教育も着実にやっておるということでございます。

それから、福利厚生につきましては、先ほど村上委員のときにもお話ししましたけど、

まだ基本設計をやっておりませんので、どういう形になるかというのはまだ具体的には分からないんですけども、必要性は認識しています。そういったところが学生間の交流にとって、学生生活において非常に重要だということは認識していますので、そこは十分意識しながらやっていきたいと考えております。

それから、サークルにつきましては、今、大学のサークルの加入率というのが大体３割から４割の間ぐらいなんですね。そういった意味では、北方にいてもサークルに入っていない学生が６割近くいるということで、そこはそこでまた少し課題かなと思っております。新しい学部につきましては、もし都心地区に立地することになれば、北方と合同でやるような形が今のところはよろしいかなと考えております。これはただ、学部や学科との調整が残っておりますので、そういった学生をどういうふうに巻き込んでいくかというのはこれからの議論になるかと。まずは立地場所が決まらないとなかなか進められないということでございます。

それから４点目の、情報のウェブデザインのところです。これは三宅委員がおっしゃられたように、とても大事な点でして、つまり量産型の技術ですね。半導体でいえば上工程と下工程がありますけど、完全に装置化しているんですよね。ですから、ものづくりというところに入るのはなかなか難しいんですけども、設計であるとかデザインであるとか、意匠ですよね、こういったところはまだまだ教員であったり、それから情報スキルを身につけた学生が入っていけるところはありますので、大手企業は難しいんですけど、中小はかなり入っていけますので、そういった点では、こういった分野に向けて学生教育をしっかりやっていきたいと考えているということでございます。

○委員長（佐藤栄作君）三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君）ありがとうございます。

時間が限られておりますのであまり深くは申し上げませんが、文系でもいわゆる情報教育をしっかり行っていただけるということで、大学によっては、文系に入ったけれど、実際に勉強するうちに、やっぱりこっちをしたいということで変えられるというようなこともあって、文転とか理転とかございます。そういったことも少し視野に入れていただいて、本当に融合した形の大学があれば、入った学生も、本当に自分がやりたい勉強というのができるのではないかなと思いますので、新しい学部だけではなく、そういった観点をぜひお願いしたいと思います。

それから、福利厚生については、まだ場所が決まっていないのでということでございました。残念ながらうちは北九州市立大学に行かなかったんですけど、今年大学に入学をしまして、やっぱり頼るべきところが生協だったりということも正直ございます。情報もそこで結構いただいたりということもありますので、その辺も何かしら有効に御活用いただけたらと思っております。

あと、サークルについては、今少ないということで、多分北九州市立大学の学生はアルバイトをしていらっしゃる方が非常に多いのではないかと。厳しいということも伺っておりますので、今度新しい学部ができたときに、中心地ですから、もしかしたら働く場所が割と近くにあるかもしれませんけれど、せっかく大学生になって、緩やかなサークルとかもあるので、学生時代に本来経験できることは経験をしていただきたいと思っておりますので、そのあたりの仕組みもしっかりつくっていただきたいと思っております。

あと、ウェブデザインの件も、非常に重要に考えていただいているということでございますので、ぜひ前向きにしっかり取り組んでいただきたいと、要望して終わります。

○委員長（佐藤栄作君）ここで、副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）柳井学長、本当に今日はお忙しいところお越しいただきましてありがとうございました。私としても、北九州市立大学の新学部ができることについては大変歓迎しておりますし、積極的に応援していきたいと考えております。

そういう思いは多くの議員の皆さんも同じだと思っていますが、この新学部の設置、それから設置場所について、これまで行政から議会側にその情報の提供であったり、説明がほとんどなかったわけであります。いろいろお話を聞くと、やはり今後、北九州市としても様々な支援をしていかなければならない局面が来るだろうと思っておりますので、議会側としても最終的に議決をしていくことになろうかと思います。その際は説明責任等も生じてまいりますので、しっかりといろんな意見交換、今日のようなこういう意見交換であったりとか情報提供、そういったところが非常に大事になってくるんだろうなと思っております。これは行政にも再三再四要望しておりますので、今後もしっかりと情報提供、意見交換等をさせていただきたいと思っております。

それで、質問に入りたいんですけれども、まず新学部の設置及び運営に関し特段の御配慮、御支援を市に要望されていると思いますが、具体的にそれは何を指すのか、教えていただきたいと思います。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）特段のというところがポイントかもしれませんが、市の財政自体が非常に厳しい状況であるというのは、私もマスタープランであるとか市政改革の会議に出ましたので、その状況というのは重々把握しております。そういった中で、今回の事業が市にとっても将来非常に重要な政策であるということは認識しておりますので、そういった意味で特段の御配慮を願いたいということであります。そしてまた、現実的には、先ほど申し述べましたように、文部科学省の機能強化支援の補助事業につきましては４分の１が地元負担でございますので、そこのところはぜひよろしくお願いしたいという意味合

いでございます。ぜひよろしくお願いしたいと思います。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）分かりました。ありがとうございます。

次に、例えば現キャンパスを改修する場合、概算で結構なんですけれども、事業費がどの程度想定されるのかというところを分かれば教えてください。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）現キャンパスというのは、ひびきのでしょうか、それとも北方でしょうか。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）北方もひびきのも合わせて、それぞれでも結構なんですけれども。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）それは北方やひびきのに建てる場合ということでしょうか。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）そうですね、改修して新学部の学生を受け入れるためのものです。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）今の既存の設備を改修して中に入れるのはもうキャパシティーとしては無理な状況で、例えばひびきのに立地するとしても、新しく建物を建てないと入らない状況になっております。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）改修ではもう難しいと。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）難しいということですね。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）分かりました。ありがとうございます。

それでは次に、旦過市場に進出する場合の概算の事業費はどれぐらい見ておられるか、お願いします。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）実はこれも立地が決まっていませんので、旦過にもし決まったとしても、旦過の組合側と我々でどれくらいで折半するのかとか、それから、どれくらい全体として出るのかというのは設計してみないとまず分からないということで、回答できる範囲で今日お答えしますと言いましたが、実際分からないので回答できないかと思います。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）分かりました。

それでは次に、旦過市場の協同組合から大学側へも誘致についての打診があったのかと

いうところを教えてください。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）私どもは、例のセレモニーがございましたけども、旦過市場から市長にお願いということで文書を出されていると思います。我々はあれで初めて最終的な意思決定が出たということを承知しました。来ていただきたいという、あの文書の中身だけ知っているということです。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）もうそれだけだったんですか。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）それだけです。もちろん事務方では、それ以前にいろんな打診等をした上で、向こうの組合側で議論して要望書を出されたんだと思います。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）大学側ということではないんですか。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）大学からお願いしたわけじゃないですね。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）意見交換はされたんですか。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）意見交換会はしています。２月26日に事務レベルで旦過の組合と大学の企画で意見交換会をしました。向こうから来てくれと言われてですね。今日と同じような形だと思います。

もし新学部をつくるとしたらどれくらいのサイズで、学生がどれくらいでという、今日御説明した内容をお伝えしたということです。２月26日に、旦過総合管理運営株式会社主催の交換会に呼ばれて内容の説明をしたということでございます。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）分かりました。

じゃあ最後なんですけれども、キャンパスの話が、先ほど戸町委員からもありましたけれども、僕も本当に学生にとって大変重要な場所になろうかと思っております。それを踏まえて、学生や教員の皆さんの生活環境とか、そういったものを考慮したり、あるいは、図書館や体育館やグラウンドをはじめ大学の教養施設が都心にということになれば、やっぱり分散してしまうと、デメリットの部分もあるんだろうと思います。それに対しては、デメリットもあるけれどもメリットもあるんだということだったと思うんですけれども、その上で、交流スペースとかそういったものをつくっていくことで対応したいと言われたんですが、今後また学部が仮にさらに大きくなったりとかする場合、そういった交流スペ

ースだったりとか研究室だったりも、さらに拡張していくことも可能性としてあるのかなと考えるんですが、仮に、旦過のこのＢＣ地区に新設することになった場合に、拡張性とかというのがあるのかなと考えるんですが、そこら辺は想定していますでしょうか。

○副委員長（三宅まゆみ君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）ＢＣ地区というのはまだ決まったわけではないので、何とも。

それと、学部として拡張するかどうかというのは、志願者数とかそういったところを見て決定することになるので、当面は考えていないですね。まずはあそこの地区にお願いするというレベルでしかないということです。

それと、教養施設につきましては、その中でも必須のものがございまして、それは図書館なんですね。図書館については、必修科目との兼ね合いで必要な図書をそろえる必要がございます。そういうものに関しては、図書室レベルになりますが、きちんと併設していくことは考えております。一歩離れた分野の書物であるとかは、北方とかひびきのを御利用いただくという形になるかなと思っております。それもできるだけ電子書籍化していって、移動しなくても済むようなところで将来は進めていきたいと考えております。

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）分かりました。以上で終わります。

○副委員長（三宅まゆみ君）ここで、委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（佐藤栄作君）それでは、最後に少し時間がありますから、委員の皆さんから何かありましたらと思うんですけれども、大丈夫ですか。村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）市の財政上の問題であります。やはり市の財政が大変厳しいということは先ほども学長自らおっしゃっていただきました。

それで、費用負担の面で、寄附ですとかそういったものを募る、同窓会からの寄附だとか、あるいは市内からの寄附だとか、そういうことはどうお考えでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）それは必ず取り組みます。結果がどうなるか分からないんですが、できるだけ取り組んでいきたいと考えております。それは市にも新学部をつくるという申請をしましたと御報告したときにも、大学としてもそこは努力してくださいと言われておりますので、そういった取組をしていきたいと考えております。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）分かりました。ありがとうございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）今日ずっと話を聞いていたんですけども、例えば理事会、教授会としてどうしても旦過がいいという強い意志を持たれているのでしょうか。それとも、別に

いいところがあればそこでもいいと考えられているのか、その辺を率直に聞いてみたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）正直言いますと、温度差はあるんですね。新学部に近い学部と遠い学部があって、確かに温度差はあるんですけども、当の情報システム工学科、国際環境工学部については、都心地区には賛成しています。特に情報システム工学科は、アントレプレナーシップ教育であるとか長期のインターンシップというところがカリキュラムの決め手になりますので、ぜひ都心でお願いしたいということを言っております。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）都心というか、旦過ですか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）いろいろ候補地を洗った後には、やっぱり旦過という名前が浮上していますので、旦過ということになりますね。理事会と役員会ではもちろん賛成しておりまして、特に理事会ではかなり絶賛に近いような支持をいただいております。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）ありがとうございます。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）先ほどの質問のときに最後に聞けなかったんですけども、どういう連携をするのかというところで、相手のあることなのでというお話だったんですが、相手の企業のことは言わなくてもいいんですけども、どういう連携ができるのかという内容を教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）いろんなレベルがあると思います。一番簡単なレベルは応援団ということで、寄附金、協賛金を出すとかそういうレベルかと思いますけども、だんだん高くなってきますと、例えば授業の講義に数回呼んでもらう非常勤講師のレベル、さらに進みますと、授業を15回丸々持って成績評価をするような部分、それは単なる講師から非常勤ですね。それからあとは、今文部科学省が進めています基幹教員制度というのがございまして、それはカリキュラムの編成に意思決定を行使することができるというレベルです。そういった基幹教員についても、企業連携の中では一応提示はいたします。かなり負担が大きいので、受けるかどうかは分かりませんが。

それとあとは、研究分野では、一番簡単なレベルはコンサルタントになります。こういったアイデアをもう少し解析してくれないかみたいな話ですね。次のレベルが共同研究で、共同研究もいろんなレベルがあるんですけども、一緒に開発していくようなものですね。応用研究から基礎的な研究までかなり幅があるということです。そしてさらには、クロス

アポイントメントという制度がありまして、１週間のうち数日大学に来ていただくと、そして、そこで例えば技術指導をするとか、あるいは、こちらから企業に出るというのもあるんですね。ですから、企業連携もいろんなレベルがございまして、それは相手企業の状況によって変わるということでございます。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）ありがとうございます。いろんな連携の形があるんだなと分かりました。

その中で、例えば授業をしてもらうとかってなると物理的な距離が大事になってくるのかなと思うんですけども、例えば一緒に研究するというのがどういうものか、私はちょっとイメージが湧いていないんですが、一緒に研究するというのは、例えば本当に液体と液体を混ぜて実験とかそういうことであれば一緒にいたほうがいいと思うんですけども、情報人材とかＩＴ企業とかと一緒にコラボすることは、ある種テレワークというかオンラインでできるということになると、都心部にある必要というのも、そんなに何か必要性があるのかなと感じてしまうんですが、その辺はいかがですか。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）情報産業を分析している研究者が言っているんですが、情報技術を使いながらも、一番の肝腎な部分というのはフェース・ツー・フェースだと言っているんですね。直接会って、そしてその中でいろんなアイデアを出して、その中でそれを磨き上げていくと。それはなぜかというと、パソコンでやる情報交換と直接会う共同研究というのは情報量が全く違うんですね。相手の表情であるとかしぐさであるとか、そういったものも込みで、この技術というのが本物かどうかというのも判断しやすいし、やる気があるかどうかも分かると。ですから、フェース・ツー・フェースというのは最後の最後で外せないんですね。そういった意味で、都心のほうが有利だと思います。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）ありがとうございます。

最後、意見で終わらせていただきたいと思うんですが、フェース・ツー・フェースで、Ｚｏｏｍのオンライン会議とか、そういうことよりも、やっぱり実際に会うことのほうが情報量があったり親密さが伝わるというのはあると思うんですけど、それは今回の新学部に限ってではなくて、全学部そうであってもいいと思いますし、今回、情報人材を育てる新学部でＩＴ企業となると、より距離的な弊害みたいなものは、ほかの学部よりもハードルが低いんじゃないかなと。情報を扱うからこそ遠くでもいいんじゃないかという考え方も１つあってもいいのかもしれないなと。けど、都心部にということであれば、それは今回の学部だけじゃなくて、ほかの学部も都心部にあればみんなにとって便利ということもありますので、この新学部だけ都心部にということを考えたときにちょっとどうかなとい

うのを、コスト面とかもいろいろ検討して、いい最適解を出していただければと思います。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）学研都市を都心に持ってくるという話ですよね。それはちょっとコスト的にも厳しいというのと、冒頭でお話ししましたように、学部のスペースの使い方が違うので。あと、情報産業というのは、分布を見ていただくと分かるんですけども、日本の情報産業の半分は東京なんですね。そのまた半分が大阪で、その半分が名古屋、そしてその半分が九州全域で、そして７割ぐらいを福岡が握っていると、そういう構図なんです。ですから、情報産業が普及したときに、いろんな研究者は、これから情報産業は地方に出ていって平準化するんだと言う人もいたんです。ところが、蓋を開けてみたら集中しているんですね。何で集中するかというと、先ほどお話ししたように、やっぱりフェース・ツー・フェースというのが非常に利いていて、それで特典とかが集まってくるんですね。そこで、人のつながりであるとか、いわゆるローカルで回っている情報というのがあって、それが製品開発につながるという発想なんですね。そういった意味でも、都心立地というのは産業論という面から見ても非常に重要であるということです。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）分かりました。ありがとうございます。

○委員長（佐藤栄作君）岡本委員。

○委員（岡本義之君）新学部の説明の中で、先ほど来、市内企業との連携という話をずっとされておりますが、新しく工学系の学部ができるということで、市内には九州工業大学という情報関係の大学があります。今後、そういう学部ができることによって、そういった大学との大学間の連携は、競争する相手でもあるかと思うんですけど、どのように考えていらっしゃるか、最後に聞かせてください。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長。

○参考人（柳井雅人氏）御指摘の点は非常に重要でして、もともと九州工業大学、それから産業医科大学、九州歯科大学とは４大学学長会議という懇親を持っておりまして、その中で、特に九州工業大学とは共同研究で最近非常に深みが出てきておりまして、ＪＳＴという補助金を扱う団体がありますけども、そこの応募に関して北九州市立大学と九州工業大学が共同で出すという件数がかなり増えてきているんですね。そういった意味では、情報にかかわらず工学系全域で、九州工業大学とは今後も連携を取っていきたいと考えているということです。

○委員長（佐藤栄作君）岡本委員。

○委員（岡本義之君）ありがとうございます。

○委員長（佐藤栄作君）それでは、時間も来ましたので、質疑についてはこの辺で終わりたいと思っております。

柳井学長、もしよければ最後に一言お願いします。

○参考人（柳井雅人氏）本日は大変いい機会を与えていただきまして大変ありがとうございます。北九州市の財政状況が非常に厳しいということは私も重々承知しておりますが、これは北九州市の未来にとって非常に重要な事業であるということに鑑みまして、ぜひ格別の御高配、それから御支援を賜りたいと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

○委員長（佐藤栄作君）柳井学長、本当に今日はお忙しい中、貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございました。大変有意義な機会になったと思っております。また引き続きよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

○参考人（柳井雅人氏）ありがとうございました。

○委員長（佐藤栄作君）それでは、ここで10分間休憩したいと思いますので、よろしくお願いします。

（休憩・再開）

○委員長（佐藤栄作君）それでは、再開します。

次に、政策局から北九州市立大学の新学部について報告を受けます。大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　それでは、北九州市立大学の新学部について御説明いたします。

ファイル名02、報告、北九州市立大学の新学部についてをお開きください。

本日の報告内容の御説明の前に、資料の２ページ目に、３月21日の総務財政委員会で御報告させていただいた内容を抜粋しておつけしております。御参考にしていただければと思っております。

それでは、本日の報告の説明に入らせていただきます。

タブレットの１ページを御覧ください。

まず、１のこれまでの経緯についてでございます。

北九州市立大学では、国の方針や市内企業のニーズなどを踏まえ、新たにデジタル分野に関する教育プログラムなどの準備を進めていたところ、令和５年４月に、国がデジタル、グリーンなどの成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向け、新たな学部などの設置を促進する大学・高専機能強化支援事業を創設いたしました。これを受けまして、大学では、新学部の設置を目指すこととし、令和５年５月にこの支援事業に助成金の申請を行いました。その後、７月に選定を受けております。

その後、教育内容や設置場所などについて、大学において検討、調査を行ってきましたが、大学独自の調査や情報だけでは候補地の選定に限界があったことなどから、令和６年１月30日に、北九州市に対して、北九州市立大学新学部設置についての要望書の提出をし、小倉都心部での新学部設置について、市に対して協力を要請するに至ったと聞いております。この大学からの要望書提出の報道を受けまして、旦過市場への新学部設置の可能性について、旦過市場の関係者の皆様から当時の建設局に対して相談がございました。市場へ

の新学部設置の可能性について検討を行いまして、一定のめどが立ったことから、市場関係者と大学が中心となって、２月26日に意見交換会を開催いたしました。意見交換会の中では、双方の思いを確認し、市場関係者の総会で新学部誘致の意思決定が行われたと聞いております。その後の３月15日に、正式に旦過市場から大学と市に対して、旦過市場の今後のにぎわいづくりに係る北九州市立大学との連携強化についての要望書が提出され、その後、３月21日の総務財政委員会において報告を行わせていただきました。

次に、２の大学が求める要件について御説明いたします。

まず、施設要件としては、新学部の定員472名を収容するため、必要な延べ床面積がおおむね4,000平米であること、建築基準法で定める学校の教室として、採光が取れる基準値以上の窓があること、施設が建築基準法で定める耐火建築物であることが施設の要件となります。

次に、大学の新学部運営に必要な要件として、ジョブ型インターンシップなどの実施を検討しているため、地元ＩＴ企業などと連携が促進できる小倉都心部であること、教員や学生の往来を考慮し、北方キャンパスまでの移動が容易であること、交通アクセスが良好で、学生にとって利便性の高い環境であることがあります。そのほかに、令和９年４月の開設に向けて施設整備等が間に合うことなどが要件となっております。

最後に、３の今後の対応についてでございます。

今後は、大学による設置場所の早期決定に向け、必要な支援を行いながら、関係者と協議を行ってまいりたいと考えております。

以上で報告を終わらせていただきます。

○委員長（佐藤栄作君）ただいまの報告に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質問、意見はありませんか。大石委員。

○委員（大石正信君）総務財政委員会が３月21日に開かれて、新学部の設立について重要な説明がされていなかったということで、市に解明を求める決議が出されて、今日学長に来ていただいて、一定解明された問題はあったんだけど、当日私は休んでいたのでよく分からないんだけど、こういうことについて、いつ誰がどういう形で決めたのかと。１月30日に大学から市に要望書が提出されている、これは誰に出したのか。26日に出されたのは神嶽川旦過地区整備室になっていますけども、１月30日は誰に提出されたんですか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　市長に出されたものです。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）１月30日に大学が市長に新学部の要望を出されたと。２月26日に、旦過市場から大学に対して要望がされたと。私は昨日、旦過市場の組合長にも話を聞きま

した。確かに、中尾組合長は、旦過市場に472人が来れば市場の活性化につながるということで要望はしたと言われました。

ところが、その翌日の２月27日に、ＦＢＳの取材に対して武内市長が、川沿いのビルの３、４階部分を有効に活用するというアイデアで、若者を都心に取り戻す、この観点からしっかりと検討していくに値する案だと思いますと言われているわけですね。だから、26日に要望して、27日に市長がマスコミに発表していると。いつ誰がどのように決定したのか、あまりにもね。要するに、26日に要望されて、翌日の27日に市長が発表すると。最初からもう大学と市長と旦過市場が決めとったんじゃないかと疑わざるを得ないんだけど、ここはどうなっていますでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君） 大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　少し丁寧に御説明をさせていただきたいと思います。

１月30日に、もともと大学が昨年、先ほど御説明させていただきましたけれども、助成事業に選定をされまして、そこから、大学をどこにするかというのをずっと大学で検討をしておりました。その中で、先ほど学長もおっしゃっていましたように、都心部で探すというところで、4,000平米、470人のキャパシティーがある場所というのはなかなかなかったということで、その選定に関して、１月30日に大学から市長に対して要望書が出てきたという形になってございます。そこで要望書が出てきたところから報道がありまして、その報道を見た旦過市場の関係者の皆様が、その報道を受けまして、ぜひ我々のところにどうだろうかというところを、当時の市の建設局に御相談をしながら、きちっとそこに入るものなのか、大学が旦過市場に来れるのかどうかという検討をして、２月26日の意見交換会に至ったと聞いております。最終的に旦過市場から市に対して、大学に対して要望が出ているのは３月15日という形になってございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 大石委員。

○委員（大石正信君） ３月15日に、何と言われましたか。

○委員長（佐藤栄作君） 大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　失礼いたしました。旦過市場から大学と市に対して、ぜひ旦過市場に新学部の誘致をしたいという要望書が出たというところでございます。

○委員長（佐藤栄作君） 大石委員。

○委員（大石正信君） １月30日に大学が市長宛てに新学部の要望をされたということは分かるんだけど、２月26日に旦過市場から大学に要望したわけですよね。だから、１日後にですよ、旦過市場の建物の３階に入れるとか、あまりにも。事前にそのことが決まっていたのか決まっていないのか、誰がどのように決めたのか、市長の思いつきで言ったのか、そういう報道があったと言っているのか、ここをはっきりさせてほしいんですけど。

○委員長（佐藤栄作君） 大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　１月30日の要望書を受けまして、当然それ以降、旦過市場から御相談があった中で、旦過市場の役員の方々と建設局で、実際に例えばどういう場所に、どういう形で入れていくのかというところを御相談したと聞いております。その中で、ある程度、こういう形態で入るよというところが出来上がった段階で２月26日を迎えたという形なので、１月30日以降、相談を受けて、そういったプロセスを踏んできたというところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）１月30日に大学から市に要望が出されたという中で、いろいろ考えていたと。で、旦過市場から大学に出されたということで、市長が言ったというだけであって、決定はしていないということですよね。

しかし、我々議員としては、そういうことについて、受け取ったかどうかよく分からないんだけど、そういう経過が報告されていなかったという問題もあるんですよね。だから、議会に対する発表の前に、市長が発表していくというやり方になっているのが多過ぎると思うんですよね。そのことが余計な混乱を招いていくと思うんだけど。３月21日に私はいなかったんで、具体的なことがされていなかったということなんだけど、そういうあたりについては、今後こういうことがあってはならないという形になっているのか、今までどおりこういう形で市長が聞いたことを発表していくというふうになっているのか、そのあたりはどうなのか。

また、３月末までに候補地を決定ということで、実際、先ほど学長も言われたように１年ぐらい遅れているわけですよね。そのあたりはどのように考えておられますか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　３月の段階できちっと報告ができていなかったというところもございますので、そこは我々も真摯に受け止めまして、今後はきちっと御報告をできるような形にしたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）３月21日の総務財政委員会の中で、そういう経過があるわけですよね。前の担当者に話を聞いたら、いや何も決まっていないんですよと。事前に私が聞き取ったときには、何も聞いていないんですよという一点張りだったんですよね。だから、やっぱり何か隠されているのかなと思わざるを得ないわけです。その経過も今日みたいな形で出せば、隠していないということも分かると思うんだけど、そういうあたりについては今後改善していくということになっているんですか。引継ぎはされていますか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　私も４月から来たということで、引継ぎもきちっと受けておりますし、そういった内容を聞いております。なので、先ほどの御答弁の繰り返しになってしま

うんですけれども、今後そういったことがないような形できちっと考えていきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）分かりました。こういう形で学長も来られて、今後、丁寧な説明がされていかなければ、逆に言えば、進むものも進まなくなっていくので、きちんと対応していただきたいと。

新学部について質問しますけども、今度の情報イノベーション学部というのは、私としては、運営費交付金も22億円から若干増えましたけど、外部資金が減ってきている下で、それを獲得していくことが、企業のニーズに応えて人材育成というのは分かるんだけど、大学が改悪されて、この資料を見ると、企業の方がトップにおられて学長がナンバーツーとなってくると、実際には軍事研究だとか企業の進める研究を優先して、本来の基礎研究、そういうものがおろそかになっていくんじゃないかという懸念があるわけですよね。だから、情報イノベーション学部をつくっていくという大枠は賛成ではあるんだけど、そういう外部資金を獲得していくために、また、企業の経営陣がいっぱい入っておられますよね。そういう方にシフトしていくようになっていくのか、その懸念はないのか、その辺について伺いたいんですけど。

○委員長（佐藤栄作君）大学担当課長。

○大学担当課長　外部資金獲得によって大学の先生の研究がおろそかになっているんじゃないかというところで御答弁いたします。

確かに一般的に、大学は国からのお金が減らされて、研究者の方が十分な研究ができない、そして、外部資金の獲得のための事務処理が増えているというところで集中できないという課題があるんですけれども、北九州市立大学では、先生が研究に専念できるように、外部資金獲得だとか、あるいは産学連携、それから知的財産の関連の業務を行う専門職をＵＲＡ領域といいますが、ユニバーシティー・リサーチ・アドミニストレーターという方を平成29年から採用いたしまして、今３名おります。そういった人的なサポートをすることで、あと、学研都市の場合はＦＡＩＳ、北九州産業学術推進機構もございますので、産学官連携のコーディネーターもおりますので、そういった専門の職員を雇用して、先生が十分に研究に専念できるような環境づくりを行っているところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）これを見ると、理事長が安川電機の特別顧問の津田さん、そして理事に商工会議所の副会頭の白川さん、理事にひびき灘開発株式会社の代表取締役社長の古川さんで、柳井学長は副理事ということで、ナンバーツーなわけですよね。だから、大学の先生の声がきちっと反映されずに、企業の方の声が反映されていくということ自身が、

今、大学が改悪されて、今までは教授会に権限があったのが、理事長に権限が与えられると、教授会自治や、また大学の学問研究や専攻性の自治というのがないがしろにされていくっていう傾向が出てきていると思うんですよね。

本来、学問研究は自由じゃないといけないし、大学の自治も全構成員の自治によって進められていかないといけないと思うんだけど、やっぱり独立行政法人になってそのニーズが非常に増えてきているんじゃないかと。外部資金を獲得しなきゃいけないという大学のことがあるわけでしょう。今回やっと2,000万円ぐらい増えましたけども、独法化以来ずっと市からの運営費交付金は削られてきているわけですよね。だから、大学当局としても、また外部資金を獲得できるような研究が増えていく、基礎研究がおろそかになっていくという状況が懸念されるわけですよね。そうなると、これまで日本はノーベル賞とかを取っていたけど、そういうのがなくなるんじゃないかという懸念もされているわけですよね。そういったあたりについてはきちんと担保していくような方向になっているんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学担当課長。

○大学担当課長　大学の体制につきましてですが、学術的なところは学長がトップで、そこは管理をしております。経営的なところは理事長に、商工会議所の津田会頭に就任していただいております。北九州市立大学は公立大学法人ですので、地域貢献だとか地域のニーズに応じた人材の供給だとか、あるいは地域の競争力の強化、こういった視点は大事だと思っておりますので、そういった意味で産学官の形で役員もそろえているというふうに認識をしております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）さっき柳井学長の話では、カリキュラム、そして教員の確保、これらは非常に大事な問題と言われていたわけですね。しかし、独立行政法人になれば、教員も任期制と、要するに５年か10年かで雇い止めされるわけでしょ。そして、市からの派遣職員も減らされて、プロパーが増えてきているという中で、大学運営をしていこうと思えば、運営費交付金が増えればきちっとした研究もできるんだけど、そうならなければ、大学の先生たちが雇い止めの心配なく安心して研究ができるという状況を確保していかないといけないんじゃないかなと思うんだけど、そういうあたりの改善とかは、何か考えておられるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学担当課長。

○大学担当課長　まず、運営費交付金の件でございますが、独法化したのは平成17年になっておりますが、そのときの決算額を申し上げますと、独法化したときの運営費交付金として、トータル25億円ぐらい市から出しております。令和４年度の決算でいいますと、実は26億6,000万円で、ここは市も大学からの要望を受けて頑張りまして、運営費交付金は１億2,000万円ぐらい増額をしております。

また、新年度の予算につきましても、令和５年度は市からの配分額は31億円なんですが、令和６年度は32億円という形で増やしております。基本的に、法人化しておりますので、自立的、自主的な運営が基本なんですけれども、地域の知の集積として、地域の人材育成の場として大事な機関だと思っておりますので、ここは市としてもできるだけの支援をしていきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）施設も結構古くて、これまで施設整備費もかなり出してもらって整備もやっていますけども、やっぱり全体が老朽化してきているということで、学生から話を聞くところによると、学食なんかも時間制限があったりとか、また、サークル棟もぼろぼろになっているだとか、階段も非常に悪いと言われたんで、北方キャンパス自身の整備もきちんとして、本当に学生の勉学条件も整備してほしいし、同時に、大学の研究者自身が任期制の雇い止めの心配なくきちんと研究できると。そして、外部資金獲得だけじゃなくて自由な研究ができるようなものにしていかないと、決められたことだけ研究しなさいということじゃ発展がないと思うんですよね。そういうあたりについては総合的に。新学部の設立の問題も大事ではあると思うんだけど、やっぱりほかの、先ほどの中では文系だけじゃなくて理系も減らすということを言われたけど、理系だけじゃなくて文学系もちゃんと充実させていくだとか、そういった総合的な見直しもぜひやっていただきたいと思いますけど、そういう見直しというのは考えておられますでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学担当課長。

○大学担当課長　独法化しておりますので、基本的には大学が考えるものだと思っておりますが、市も協議を受けて一緒に考えていきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）ぜひ、独立行政法人になって運営費交付金も若干上がったりとか、施設設備費だとか、授業料無償化だとか、コロナによって大変だった状況ではあるんだけど、やっぱり新学部だけじゃなくて、知的財産を生かした大学ということなんで、大学とも協力していただいて充実させていただきたいということを要望して、終わります。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。井上委員。

○委員（井上純子君）私から数点質問させていただきたいと思います。

今回、新学部ということで、学長までお呼びしていろいろとお話を伺った中で、ちょっと分からないことがあるので教えていただきたいんですが、そもそも北九州市立大学という大学が独立行政法人化したことで、ある程度は自主事業として方針決定は独立して、大学の裁量があるものだとは理解しています。例えば、大学の長期計画は委員会に説明はありますけれども、毎年度の運営費を大学へ助成したとしても、このほかの事業方針については議会で審議されないという印象があるんですけれども、今回伺いたいのが、独法化し

たことによる大学と市との関係性を教えていただきたいんですが、大学の事業方針の独立性をどのように市として考えているのか。また、その依存度も教えていただきたいんですけれども、現在の大学に支払っている運営費、また、今、人の派遣もあるかと思うんですが、北九州市立大学の職員が何人ぐらいいて、そのうち市役所の職員を何人派遣しているのか、その点が分かれば教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）大学担当課長。

○大学担当課長　まず、大学側の予算、決算につきましては、大学側の内部の委員会で報告をしているという状況でございます。情報は大学のホームページなどで公表しております。

それから、運営費交付金の件でございますが、決算ベースで今、令和４年度が最終のものですので、令和４年度の決算でいいますと、運営費交付金が市から22億5,000万円、それから施設整備の補助が２億5,000万円、令和４年度は交付をしております。

それから、人の関係は、令和５年５月現在で教員が260名、職員が200名おりまして、職員の200名のうち、市の職員が15名出向しております。それから、プロパーの方が72名、契約の方が113名という状況になっております。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。今の説明だと、費用的なところ、人的な負担は市にありながらも、基本的には予算、決算というところの事業方針は大学独自で行われているものだと理解しました。

ただ、今回、マスコミの発表に私もちょっと違和感がありながらも、市長の独断なのかというと、あくまでも今回大学が自分たちの事業の方針として、費用負担が自分たちで賄えないから市に要望をし、検討するというところまで市長が発表されたのかなと理解しています。ここは、市長があくまでも新学部を旦過、小倉都心部にしていきたいという要望を受けて、この時点で、はい分かりました、じゃあ費用負担を出しましょうということを返したわけではないと理解していいか、その点を教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　今どの段階かというのは、先ほどの２月の話ということで理解させてもらえれば、その時点では、検討に値するというお話でしたので、当然、今委員がおっしゃったように費用を出すとかを決定ということをお伝えしたものではないと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）まさに検討に値するということで、この委員会で検討できているのだと理解しています。

また、費用面につきましても、今回学長に来ていただいて説明の中でも、旦過に建設し

た場合、新学部を設置した場合の費用というところはまだ積算は今からだということで、じゃあ検討をするにしても、公費が新たに必要という条件を踏まえても、審議するには正直まだ情報としては整っていないのかなという印象を受けるんですけれども、市としてはどのくらいを想定して、検討していくに当たって国費がどのくらい入って、市費として追加投入をどのくらいの幅で見ているかとか、そのあたりはありますでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　整備費用と国の助成事業という御質問であると思います。

まず、先ほど学長から、概算とすると、大体今、国の助成事業で出ている総額は18億円というお話があったかと思います。この助成事業は施設整備費の最大４分の３で、今、13.5億円という御説明があったかと思います。そこが国のお金で出てくるので、大学が今持っている費用になります。それを差し引いてという形で、先ほどの学長の話で4.5億円というお話があったかと思いますが、その部分について、先ほど寄附のお話もありましたけれども、当然大学の中でも財源をきちんと確保するというお話もいただきましたので、その中でどうしても大学が足りない部分というところはまた市と協議をしながら、今後必要になってくるのかなと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。国の助成金が出ながら、地元負担が4.5億円の中で、大学も確保の努力はされていくということですけれども、この足りない部分、最高4.5億円なのか、ちょっと分からないんですけれども、市費として必要になってくるということは、それなりに大きな金額なのかなと思います。ただ、大学としては新学部の決定にはもう時間もないということで、前向きに進めていただきたいとは思うんですけれども、やはりそこの。今後の地方交付税措置で増額されている見込みもあるので、賄っていけるであろうという説明はいただいたんですけれども、実際にイニシャルコストだけでも足りない状況ですから、今後の長期的な負担のところはやはり市も足りなければ相談されることも十分にあると思いますので、財源確保だったり、柳井学長は市の市政変革だったり財政危機にすごく興味を持たれていますので、同じく大学の運営についても見直しという厳しい認識というのは持っていただきたいということを市も要望していただきたいと思っています。

もう一点教えていただきたいと思います。今、国から地方交付税措置をされて、運営費交付金を22億円ほど負担しているかと思うんですけれども、実際に国から地方交付税措置されても、大学だけではなく市の事業というのは、いろいろ積算されて、地方交付税を使うんですけれども、財政・変革局から予算配分されるときに、そのとおりの金額をもらわないということが多くあると思っているんです。ですから、今実際に国から交付税措置されている金額は幾らで、大学に今支給しているのは22億円でとかといっても、そもそも国

から幾ら地方交付税措置されているのか、分かれば教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）大学担当課長。

○大学担当課長　実はこれは財政・変革局しか詳細は分からないんですが、分かる範囲でお答えいたしますと、まず国が地方交付税措置する際に市から国に基準財政需要額というものを提示するんですが、大学の部分だけでいいますと、理工系学部、社会科学系学部、人文科学系学部で１人当たりの単価が決まっておりまして、それに人数を掛けて積算するものでございます。国のホームページに単価が出ていますので、それで単純に計算すると38億円という金額にはなります。これ以外にも市として地方交付税措置されるものがたくさんありますので、全てを合計して国に提案、そして、国から幾ら来ているかは我々では分かりかねる状況でございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）井上委員。

○委員（井上純子君）ありがとうございます。

そうなんですよね。地方交付税措置されても、財政・変革局がちょろまかしてと言ったらいけないですけど、抜いてそれぞれに配分していくから、結局お金がそのとおり使われないという現状があると思っています。ですから、今回単価が理系学部で増えたところで、1.7億円増えるであろうという柳井学長の説明があったんですけれども、どれだけ。既に今単純計算で38億円ぐらいあって、そこから抜かれて22億円ぐらいに減っているということを考えたときに、そもそも十分な金額が大学に渡されていないと私は認識していますので、ここはしっかり私も財政・変革局に伝えていかなければいけないところだなと思いますけれど、大学が今後、町にとっての未来にとっての大きな投資であるということであれば、ここの財政措置のところを、担当局としてしっかり予算確保の点で努力していただきたいということを要望して終わりたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）お願いをいたします。

今までの経過をるるお伺いいたしました。大学の新学部の開校が令和９年４月ということであります。

まず最初に、今からのスケジュール感をざっと教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　令和９年４月に開校ということで今準備を進めております。令和９年４月に開校しますので、令和８年度に建築工事を予定しております。その前の年の令和７年度に実施設計で、令和６年度に基本設計を予定しているという状況でございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。

今はこの委員会の中では結局まだ場所の決定ではないということを前提に話している体を取っていると思うんですけれども、実際に発表されるタイミングはいつになるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　決定の時期は明確ではないんですけれども、議会から決議をいただいておりますので、丁寧な議論をしながら、当然最終的には大学が決定をするという形になりますので、我々も必要なサポートをしながら、最終的に大学が決定するところを後押ししていきたいと、近い時期に発表ができるタイミングになればまたお知らせをさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）分かりました。

仮定の話になってしまうんですけれども、例えば旦過に来たという場合、今、ＢＣ地区というのが候補に挙がっております。図面を見ると、このＢＣ地区は非常に細長い場所であります。ここに地権者は何人おられるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　ＢＣ地区の地権者についてなんですけども、すみません、これは所管が都市整備局になるので、聞いている範囲でのお答えという形になりますけど、まだ地権者の数は決まっていないと、今からいろいろ御意見を伺いながら決まっていくと聞いております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）地権者の数が決まっていないっていうのは、すみません、ちょっとイメージが湧かず、お願いします。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　失礼しました。高齢化でやめられる方もいらっしゃる、店舗を今やられていてやめられる方もいらっしゃるということで、実際に再整備をして今後また旦過で再度やられるのかどうかというところについてまだ意思確認が全部できていないので、現時点ではまだ、最終的にどのぐらいの方が戻ってこられるのかというのが分からないと聞いております。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）仮にＢＣ地区で大学が創設されるといたしますと、そのＢＣ地区は民地であります。所有者が民間で、建物は民間と北九州市立大学の共有の所有物ということになるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　その点につきましては、今から大学と地元で考えて、決定をすれば

という大前提ですけれども、決定をした段階で協議をしていくと聞いております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）事前に御説明を伺った段階では、かなり建築的なイメージなども伝えていただきまして、大学の３階、４階の面積がそのままでは足りないので少し道側に張り出すような計画を考えているなどという御説明をいただきましたので、もう少し具体的なことが進んでいるのではないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　先ほどのＢＣ地区のお話で、実際に旦過市場は当然、大学を誘致するに当たって、入るのかどうかという検討はされています。先ほどおっしゃったとおり、狭い範囲になりますので、条件である4,000平米がきちっと確保できるのかという検討を行って、上に載せるのに加えて、少し道路側にも必要面積を確保するために張り出すというところの検討まではやっていると聞いております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）その検討をされているのは北九州市立大学でよろしいんですよね。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　大学と旦過市場とで話して、その中に都市整備局も関わりながらと聞いております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）としますと、都市整備局に聞くともっと詳しい内容が分かるということなんでしょうか。かなり決まっているというふうに考えていいんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　今言っている情報までしか聞いておりませんので、そこは我々の部局では分かりかねるというのが正直なところでございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）常識的に考えますと、１年遅れたとかってかなり急いでいる段階ですので、もちろん大学も進めようというふうに動いていると思います。

　これから近いうちに発表があると先ほどおっしゃられました。近いうちというのはどれくらいの近さを想定すればいいんでしょうか。例えば来月だとか、再来月だとか、夏までとか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　今申し上げられるのは近いうちということしか、まだ何も決まっていませんので、断言はできません。申し訳ありません。

○委員長（佐藤栄作君）村上さとこ委員。

○委員（村上さとこ君）今までもそうだったんですけど、まだ何も決まっていないと部局が言うときは、ほぼほぼ決まっていることがかなりあったと思いますし、今の学長のお話しぶりから考えても、かなり決まっているのではないかなと思います。決まった段階で、発表はまだですけど、発表よりも前のタイミングで、さらに詳しい御説明を委員会にしていただきたいと思います。その際には、これは設計のことなので建築だとか、これは大学のことなので総務財政委員会だからというような縦割りで説明すると、話が行ったり来たりになってしまいますので、まとめて、例えば必要があればこの総務財政委員会にも建築の方を呼んで御説明をいただきたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。戸町委員。

○委員（戸町武弘君）ちょっと質問したいんですけども、先ほど学長の話では、ひびきのも北方も検討したけど手いっぱいなんですと、入りませんということなんですけども、現実に定員は増えていないのに手いっぱいというのは、市としてはどういうことと捉えていますか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　今回の新学部については、ひびきのの一部分と北方の一部分ということで、両方をどちらかに持っていくのはもう既にキャパシティーがいっぱいなので、新学部をつくるときにはどこか新しい場所をということで理解をしている状況でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）なるほど。ということは、ここにキャンパスをつくれば、ひびきのも北方も余裕ができるということですね。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　当然、学部が動いていくという形であれば、今の定員の472名分の定員は空かないにしても、一部分は減ると考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）旦過から要望書が出ているんですけども、旦過の方々は大学を誘致して何をしたいのか、目的は何でしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　我々が旦過市場の関係者から聞いているのは、例えばセンサーとかによる通行人の人流解析であったり、将来的な人流予測とか、個別店舗への経営改善の提案とか、そういったことを望まれているというようなお話を伺っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）ちょっと確認なんですけども、旦過の人たちは、じゃあ自分たちの経営改善のために大学に来てほしいという話をしているわけですか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　これは少し付加的なものになりますけれども、もともとはにぎわいづくりであったりとか、やはりそういった面です。にぎわいづくりの面で来ていただきたいというところがメインになろうかと思います。先ほど御説明したものは付加的なものになろうかと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）私も最初に、旦過が誘致したいのはにぎわいづくりのためなのかなと考えていたんですけども、結果的にリバーウォークも、西日本工業大学がすぐ近くにあってもにぎわいづくりにどこまで寄与しているんだろうっていうような感じがするわけなんですよね。旦過の人たちの気持ちは理解できるんですよ。大学生が来てくれたらここはにぎわいが増えるんじゃないかと。大学生も通って、昔、大學堂があって、そういう成功体験があって、元気な市場になるんじゃないのかって考えられるのは分かるんだけど、そう短絡的ではないんじゃないかなと思うんですよ。そこはやはり市がもう少し慎重に考えたほうが、慎重にというよりは、アドバイスをしたほうがいいと思うんですよね。

当然ながら来てもらいたいですよ。それははっきり言って、そんなもん、中央町商店街だって来てもらいたいと言うと思いますよ。しかし、本当に来て、何をやらないと駄目かと言ったら、先ほども少し話をさせてもらったけど、大学生のためになるかどうかだと。どこに教室をつくったら、もし仮に長期のインターンシップが成功するという話を信じるとしたら、本当にどこにつくったらいいかというのは大学生の教育ベースで見る必要があるんじゃないのかなと。この話を聞いていてよく分からないのは、先ほど大石委員も話していましたけども、この旦過に大学を誘致しようというのを誰が一体求めているのかと。よく分からない。ひょっとしたら、大学の理事会がここに持ってきたいと考えているのかもしれない。教授会は結構温度差があるという話もしていた。

何でこんな話をするかと言ったら、私には非常にじくじたる失敗体験というか、コムシティなんですよね。我々はこのコムシティの失敗を繰り返してはならないんです。だから、本当に何が目的でどんな効果が出るのかというのは、しっかり市で検討する義務があるんではないかと考えております。

そこでまた話をややこしくしていくのが、この話が出る前に、武内市長がアップグレードって言ったんですよ。このアップグレード、旦過をアップグレードするという、この話は一体何の話だったのかというのを明確にしないと駄目だと思うんですけども、この辺は明確にできるんでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　アップグレードのお話をいただきました。

それは令和５年10月の終わりに神嶽川旦過地区整備室で発表されたものだと思います。

これは都市整備局の担当にはなりますけれども、我々が聞いているのは、近年の社会経済状況とかを踏まえて、その変化に柔軟に対応をするために、市場としてのさらなる魅力アップといったものに向けた検討を開始するというところで、直接的な大学の話ということではないと聞いております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）それをマスコミが大々的に取り上げるわけですよ。我々もびっくりしたんだけど、どんな計画を考えているのかと。それから続いて出てきたのがこの大学なので、どうしてもここでリンクしてしまう。そしたら、一体誰がここへ誘致しようとした仕掛け人なのかという話にだんだんなっていったのが現状況じゃないのかなと私は考えております。

話を戻すんですけども、民地に市施行で再開発をすると聞いているんですが、それはそれで正解でしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　神嶽川旦過地区整備室から聞いているのは、Ａ地区については市施行で、それからＢＣ地区については民間施行と聞いております。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）大学がひょっとして入るなら、じゃあ組合員になるということですか。この再開発の組合員になるということですか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　そこもまだ正確には都市整備局からは聞いていない状況です。そこの役割分担とかというのはまだ決まっていないと聞いております。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）自分もいろんな大学を見てきて、大学が民間の施設に入るというのは聞いたことがあるんですよね。例えば大学が１階部分とかを民間に貸して営業させるっていうのも聞いたことはあるんですけども、こういう形態って私は一回も聞いたことがないんですけども、日本でどこか、こういう形態でやっているところというのはあるのでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　今御指摘いただいた内容、全国的に事例があるかというのは、すみません、現時点では把握をしておりません。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）これはどっちがこけてもまずい話になるんですよ。両方成功せんといかん、それもほぼ未来永ごう。この決意と責任が市にあるのかということですね。もし市が責任を持ってやりますというような話になれば、また自分も考え方を変えるかもしれ

ないんですけども、やはりその辺はしっかりもう一度内部で、時間がないといっても、ここで失敗するわけにいきませんので、しっかりとした検討をしてもらいたいと要望します。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。岡本委員。

○委員（岡本義之君）先ほど柳井学長からは、スケジュールが１年遅れて黄色信号がともっているという話がありました。今の説明の中で、令和６年が基本設計で、令和７年が実施設計、令和８年から建設で、令和９年開設という流れの中で、これを逆算すると、もう一回お聞きしますが、先ほど、近いうちと言いましたけど、場所はいつまでに決めないと駄目なのか、一番終わりですね、どこまでに決めなくちゃいけないというところを教えてください。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　具体的なところ、明確にいつまでというところは申し上げにくいんですけれども、大学からは、昨年の３月までに決めて４月から基本設計というところでお願いをされていました。ただし、今もう基本設計に入っていないといけない時期にかかっていますので、できるだけ早い段階で我々としては決めて、すぐ基本設計に移っていきたいと考えております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）岡本委員。

○委員（岡本義之君）先ほど来、日本に、例えば１階が市場で２階以上が大学みたいなところが、そういった例があるかみたいな話がありました。それも把握されていないですか。もし初めてであれば、それがうまくいくのかとか、そういったことを調べておかないと、もう既にいかんのやないかと思うんですが。市長が、さっきのスケジュールの中で、30日に大学から市に話があって、例えば大学からこういう例がありますとかという提示も何もなかったんですか。この時点ではないのか。旦過の話になったところで、私だったらすぐ、日本でそういうのがないか調べると思うんですけど。

それと、旦過市場ってたしか大雨で何回か浸水しましたよね。そういうのを含めて再開発すると言っていたんですけど、どれぐらいの大雨に耐えられるように、今回の再開発をする予定で来ているのか。例えば、大学の１階が大雨で浸水したと。レベルがどこまでやるのか分からないけど、隣が川ですから、そうすると大学の授業にも影響してくるわけですね。その辺はどんなふうに、どこまで、何年に一度の雨に耐えられるような、浸水しないような設計をされるんですか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　全国的な事例についてはまた、御意見を承りまして、きちっと調べたいと思っております。

先ほどの雨の話なんですけども、すみません、何年に一回かというのは都市整備局から詳しくは聞いていないんですけれども、基本的には河川改修がメインになって今回の事業

が動いておりますので、当然、浸水に対応したというところです。今、何年の雨というところが手元にはないので、都市整備局にまた聞いておきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）岡本委員。

○委員（岡本義之君）先ほど柳井学長は、カリキュラムが非常に大事になるという話をされました。建設の話もそうなんですけど、新しい学部の新学部長を誰にするのかというのもカリキュラムを決めていく上で非常に大事になってくると思うんですけど、その辺のスケジュール感は何か大学から聞いていますか。

○委員長（佐藤栄作君）大学担当課長。

○大学担当課長　現時点でカリキュラムだとか、あるいは学部長を誰にするのかというのは今のところまだ聞いておりません。そういった状態でございます。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）岡本委員。

○委員（岡本義之君）大学のこの問題は、先ほど来、建設も絡み、神嶽川旦過地区整備室なんかも絡み、都市整備局とかがあちこち絡んで分かりませんという経過がある。最近ちょっと多いなと。その辺はしっかり情報を共有していただいて、委員会では答えられるようにするのか、旦過の関係者も一回ここに、今日大学の学長に来ていただいたみたいに旦過側からも来ていただいて思いを聞くとかということも……。

○委員長（佐藤栄作君）検討しましょう。

○委員（岡本義之君）はい。特別なことをやらないと。ほかの局の人を委員会に呼ぶのはなかなか難しいはずですね。その辺、皆さんのところですぐ答えるのが難しいのであれば、ぜひそういうふうにする必要もあるかと思いますので、委員長、よろしくお願いします。私は終わります。

○委員長（佐藤栄作君）分かりました。村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）学部の設置場所と建物の所有の関係について教えていただきたいんですけども、今お話を聞いていたら、３、４階部分を学部の設置場所にするということになると、建物を区分所有するという意味なのかなと思ったんですが、そうなれば土地は共有で持つということになると思うんですよね。これは所有権を制限し合うという関係ですから、この後、建物を壊して何かに使うとなると、非常に皆さんの権利関係を整理していかないといけない。今これがうまくいっていないのが、まさにメイト黒崎跡なんですね。17人の共有者の意見がまとまらないから動かせないし、この間の議会の答弁でも、地権者の方がまずまとめてくださいと、そしたら市もお手伝いしますよという話だったぐらい、共有にすると所有権を制限する関係があって、今後何かあったら、再開発で建てた建物をあとはどうするかというときに非常にまとまりが悪いと思う、まとめにくいと思うんですよね。

そうやって考えると、区分所有して共有で持つよりも、仮に旦過につくるとしても、土地を単独で所有して、そこで単独で建物を建てるという形のほうが市としては望ましいんじゃないのかなと、北九州市立大学としても望ましいんじゃないのかなと思いますが、そういう考え方はあるのですか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　今のところ、仮に旦過市場に新学部を整備する場合、おっしゃったとおり、どういった所有にするのか、まさにそういうところを今から検討していくという段階になっております。具体的には、ＢＣ地区の権利者の方と、所有の区分の仕方であったり、工事をどうするかというところも含めて、今から協議をしていくという形になろうかと思います。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）村上幸一委員。

○委員（村上幸一君）とにかく、区分所有というのは所有権を制限する、区分所有も共有もそうなんですよね。できれば市にとって一番望ましいのは、皆さん方でも土地とか建物を所有するときは絶対区分所有よりも単独で所有するほうが価値は上がるんですよね。それも、仮に区分所有したときに、１階、２階を店舗で、３階、４階を借りるというのは非常に、上の階というのはなかなか使い勝手が悪いわけですよね。幾らで買うのかというようなことも当然出てくるかと思いますし、なかなか普通、北九州やったらマンション以外はなかなか成り立たないというのが上の階の現状だと思っているんですよね。そういう中で、区分所有して土地を共有することが、北九州市の財産にもなってくると思うんですよね。本当に正しいのかどうか。私としては、旦過に仮に建てるとしても、それはやっぱり区分所有ではなくて、単独で土地を所有して単独で建物を建てるというほうが望ましいんじゃないかと思っておりますので、意見として述べさせていただきたいと思います。

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。戸町委員。

○委員（戸町武弘君）村上委員の言うことはごもっともだなと思っているんですよね。それとか、例えば民間に建ててもらって、たな子として入るというのもあるんじゃないのかと思っているんですよね。黄色信号がともっているって言っている割には、まだ何も決まっていませんというのはちょっとどうなのかなという気がします。意見です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。篠原委員。

○委員（篠原研治君）篠原です。

今お話があったように、何も決まっていない状態だけど黄色信号がともっているという、黄色信号がともっている割には本当に何も決まっていなくて、先に決定しないと協議が始まらないというような、こんな状況ってあり得ないと思うんですよね。決定する前にいろんなプランがあって、ここでやるとどうなるか、ここでやるとどうなるか、どんな建物になるかというようなプランがあって、そこから選んでいくべきで、何も決まっていないと

ころで取りあえず場所だけ決めましょうという今の状況はすごくいびつな形だなと思います。何も見えていない状態で、私たちも何も見えていないからこそ、何を議論していいのかが分からない感じで、今ずっと話が進んでいっているような気がします。

ちょっと確認したいんですけども、以前この総務財政委員会で説明を受けたときに、国に申請を出したときに場所をどういうふうに書いてあったのかと言ったときに、たしか私の記憶では、記載していませんでしたと答弁されていたと思うんですね。先ほど学長に聞いたら、北九州市と記載していましたと答えておられました。ここにそごがあるんじゃないかと思うんですが、その辺の事実関係はいかがでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　先ほど学長もおっしゃられたように、恐らく北九州市という書き方で、場所がもうここに決まって助成金を申請する形ではなくて、もともと場所を検討する費用も含めて助成をいただくような制度になっていますので、当初手を挙げたときには、当然北九州市立大学ですので北九州市内と出して申請をしたと理解しております。以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）北九州市内。けど、前回の答弁では、記載しなかったと、たしかおっしゃっていたと思うんですけど、それは事実関係として、前回の答弁はどうお答えになられたか、覚えていらっしゃいますでしょうか。

○委員長（佐藤栄作君）総務国際部長。

○総務国際部長　すみません、今の申請内容をどうしていたかということですが、私も替わって引き継いだ段階であれですけど、前回答えたときには、具体的な場所は記載しなかったというニュアンスで担当からお答えさせていただいたんじゃないかと思います。先ほど課長から申しましたように、今回の国の助成費用というのは、まずは大まかな段階で申請をして、じゃあ場所を決めて、その計画、じゃあその費用積算とかという、その辺のコンサルというか、そういう計画の費用まで助成金として見ていただけるということですので、申請の段階では、場所がここで幾らぐらいのとかという、あまり詳細なことまで詰めなくて申請ができるというスキームでしたので、まだ場所が決まっていなかったというふうに我々は認識しております。

○委員長（佐藤栄作君）篠原委員。

○委員（篠原研治君）場所が決まっていなかった。場所は記載していなかったとおっしゃっていたと思うんですね。たしかそう、記載していなかったと。けど、記載していたと学長はおっしゃっていて、まずその時点で前回の答弁にミスがあったということだと思うんですね。我々も話を聞いていく中で、記載していないってあり得ないんじゃないかというような話になったんですよね。そしたら、いや、記載する義務はないので記載していない

んですっていうふうに、記載していないということをたしか明言されていたと思うんですよ。けど、学長は、北九州市と書いてあったと先ほど言われていたので、ここでもやはりしっかりとした答弁を私たちは受けられていない、今まで説明もなかったというところで、やっぱり不信感があると。

この新学部をつくること自体は、今日の話を聞いても、皆さん反対するというようなことはあまりないのかなと思っていますけど、ただやっぱり進め方に問題がある。先ほども言ったように、何も決まっていない中で場所だけ先に決めてしまおうというような感じ、黄色信号がともっているけど何も決まっていない、これはやっぱり進め方として慎重じゃないような気がしますね。人口増にも関わってくる、北九州の経済にも関わってくる、それこそ先ほど戸町委員が言っていたように旦過市場のこれからの発展とかにぎわいにも関わってくる中で、何も決まっていなくてゴーサインを出そうとしているという、こんな危ないことを行政がやっていくというのは私は考えられないと思うんですね。しかも、新しい建物を建ててしまうと、ここはやっぱりちょっと違うので移動しましょうと、最適なところを求めて、やっぱりこっちのほうがよかったんでって簡単に移動もできないわけですよ。なので、すごいリスクがあることなので、慎重に議論しながらやっていかないといけないですし、プランをしっかり示していただきたいと思います。

何を聞いても、まだ決まっていないとか、検討段階ですとか、これからですっていう答弁がずっと続く中で、早く決めさせてくれという圧だけ感じるんですよね。これはすごく不誠実だと思いますし、あと、早く決めさせてくれという圧というのは、それはそちら側の話であって、私たちには関係ない話なので。しっかり進めていきたいのであれば、ちゃんと事前に説明をしっかり協議しながら進めていけばよかったわけで、これまでずっと説明がなかったので、北九州市や大学側が御自身たちで黄色信号をともしているだけであって、私たちが黄色信号をともさせているわけではないので、そこら辺は勘違いしないでいただきたいと強く意見を申し上げたいと思います。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）土地、場所も決まっていなくて、18億円だけは決まっとると。自分で土地を購入して建物を建てるのか、旦過市場組合から借りてやるのか、何も決まっていない状況の下で、なぜ18億円という予算だけが決まるのか。あり得ないでしょ、こんなこと。きちんとはっきりしたことで積算されるべきじゃないんですか。何で18億円というだけが独り歩きするんですか。18億円の根拠はあるんですか。

○委員長（佐藤栄作君）総務国際部長。

○総務国際部長　先ほどの篠原委員の質問にも関わることだと思いますが、全ての詳細なことまで決まって、御報告していいかどうかっていうジャッジが伺えれば一番いいんですが、やはりこういうものというのはステップを踏みながら進めていかないといけないとい

うことがあろうかと思います。やはり進めながらきちんと間違いのない基本設計を出して、金額を出して、その次に、じゃあどういう設備でどういう仕様にするかとか、段階を踏んでいくんだろうと思っております。まずは大学も、先ほど御説明がありましたように、一生懸命都心部で考えたんですがなかなか適地がなかった、そこで市に要望を出して、市と一緒になって考えていくということで、今の段階では旦過市場でＢＣ地区というところが有力な候補になっているということでございます。ただ、議会にもしっかり御説明をしながら、段階を踏みながら、段階、段階できちんとお示しをしながら、御理解を一歩ずつ進めながら決定をしていくということになろうかと思います。

そういう意味では、先ほど学長も言われたのは、まずは議会に正式に御説明もできていない段階から旦過と言うのを、口を濁していたのは、多分そのことじゃないかなと我々は思っております。旦過を有力な候補地の一つとして現在進めていることは間違いございません。ただ、いろいろと疑問なことがありますので、今我々も一緒になってそこを詰めているという段階でございます。ちょっと不足するかもしれませんが、以上でございます。

○委員長（佐藤栄作君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 全然答えになっていないよね。順番を踏んでとか、私はそういうことを言っていないでしょう。国に20億円申請したけども18億円だったと、その20億円とか18億円とかというのは、さっき言ったように借りるのか買うのか、土地を購入するのか、建物を借りるのかで、全然違うわけでしょう。そういうことも決まらなくて、何で金額だけ出るんですかということを言っとるわけですよ。そんなことがあるんですか。どこでつくるか場所も決まっていない、借りるのか買うのかも決まっていない。そして、区画整理事業であれば一定程度土地を出し合って建てていく、それは組合とも相談しなきゃいけない。１階、２階は店舗にしますよと、それを貸して、賃料でそれを賄っていくんですよとか、あるわけでしょう。そういうことをきちっと順番を踏まえていかないといけないんだろうけど、何で20億円とか18億円という数字が出てきたんですかって聞いているんですよ。

○委員長（佐藤栄作君） 総務国際部長。

○総務国際部長 今の18億円の御説明ですが、先ほど学長からもあったかもしれませんが、申請の段階で一応概算の金額として、大体広さから、おおむね4,000平米ということが積算されています。教室や図書館やいろんな施設を利用するにはやっぱり4,000平米程度は必要だと。それから積算して約20億円ということで大学が申請したと伺っております。最終的には、国から交付内定をいただいたのが18億5,000万円ですか、約18億円ということで聞いております。その金額が一応上限で交付決定いただいていますので、そのうちの４分の３は国が施設整備に関しては補助金を出していただけるという内定だと思っております。残りの4.5億円が大学もしくは市で負担しないといけないということでございます。あくまでもこれは大学の申請段階で、自分たちで近隣の施設とかを参考にしながら出している数字

ですので、数字はあくまでも概算ということで御了承いただければと思います。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）国は、ただ4,000平米だけですよと、場所も決まっていない、借りるのか買うのかも決まっていない、そんな形で決めるんですか。そんな決め方があるんですか。逆に言うたら、そこは何で20億円ですかとか18億円ですかって聞かなきゃいけないですよ。何も決まらん、場所も決まっていなくてね。積算というのは、例えば私がマンションを建てますよと、家を建てますよと建設業者に頼んだと。平米だけで決まりますか。鉄筋コンクリートにするのか木造にするのか、平家にするのか２階建てにするのか、耐震をするのか耐震がないのにするのか、鉄筋をどれだけ入れるのか、入れたらどういう素材にするのかで全然違ってくるわけでしょう。そういうことをきちんと踏まえた上で概算というのは出るわけじゃないですか。それをちゃんと国なり大学に聞くべきじゃないんですか。それも決まっていない。そして、区画整理事業であるならば、それぞれ組合とも相談しなきゃいけない。店舗をどうするのかとか、もう一回、一からやり直ししなきゃいけないわけでしょう。きちんと聞いているんですか。大学なり文部科学省に問合せしているんですか。大学がやっているんですか。大学に任せているんですか。そういうことは、大学から聞いていないんですか。きちっと市が、そういうことを大学が言っているだけじゃなくて、把握をしなきゃいけないでしょうということを言いたいんですよ。聞いているのか聞いていないのか、大学からちゃんと聞いたんですか。

○委員長（佐藤栄作君）総務国際部長。

○総務国際部長　繰り返しになるかもしれませんが……。

○委員（大石正信君）聞いたか聞いていないかでいい。

○総務国際部長　文部科学省に市からは聞いておりません。

○委員（大石正信君）文部科学省なり大学から内訳をちゃんと聞いたのかと。聞いたか聞いていないかでいいですよ。18億円の積算根拠とかを聞いているんですかという、聞いたか聞いていないかでいいんですよ。

○委員長（佐藤栄作君）総務国際部長。

○総務国際部長　申請段階で、先ほど申しましたように、20億円ということで大学が申請をしたということは伺っております。その積算根拠については、まだ場所も当然決まっていませんので、ほかの大学の類似施設から積算して、恐らく平米等を参考にしながら、参考の概算ということで申請したと伺っております。

○委員長（佐藤栄作君）大石委員。

○委員（大石正信君）あまりにもずさんだと思いますね。大学がしたことであったとしても、やっぱり市がきちんと20億円の根拠なり18億円の根拠なりをしっかり踏まえていかなきゃいけないし、区画整理事業についても、神嶽川旦過地区整備室に聞かないと分かりま

せん、ＢＣ地区かどうか分かりませんみたいな、そんなずさんなことでは進みませんよ。そしたら、大学も神嶽川旦過地区整備室も全部集めて一緒にしなけりゃ、分かりません、分かりません、これからですと、そして、遅れているんですみたいな、そんなことで、きちんとした学部ができるんですか。緊張感を持って、もう一回出直すようなつもりで、きちんと報告してもらわないと、納得できません。以上です。

○委員長（佐藤栄作君）ほかに。いいですか。

ここで、副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（三宅まゆみ君）佐藤委員。

○委員（佐藤栄作君）まず、今回、独立行政法人である北九州市立大学が旦過市場のＢＣ地区へ進出するということも視野に計画を進めているということなんですけれども、これに関して市がどのように関与していくのか、立ち位置がよく分からないので、そこについて説明してもらいたいと思います。

それから、仮に旦過に入ることになった場合は、再開発事業に大きく関わってくると思うんですよね。この再開発事業にはもう既に負担金が入っているわけでありまして、新学部が仮に設置をされると、入るということになったら、その負担金の使い方の変更とか、あるいは追加負担ということが生じる可能性があるんですけれども、その場合は議会の承認事項になるのか、教えてください。

それと最後に、これは４月11日の西日本新聞の記事なんですけれども、北九州市の包括外部監査から、市所有の未利用地の土地と施設に関する監査結果ということで、未利用地が83万平方メートルありますと、これが民間への売却や有効活用が進んでいないという実態ですと、結局、維持管理費が財政を圧迫しかねないというような指摘を受けております。そういう指摘があったわけですから、公共施設マネジメントの観点から、市有地や遊休の公共施設でほかに誘致できる場所はないのか。先ほど学長からいろいろありましたけれども、こういう公共施設マネジメントという観点も大きな視点になると思いますので、市有地や遊休の公共施設で誘致できる場所はないのか、もしくは、先ほどからあったように、民間に建ててもらって借りるとか、そういうことも検討するべきではないのかなと思うんですが、見解をお尋ねします。

○副委員長（三宅まゆみ君）大学整備担当課長。

○大学整備担当課長　１つ目の、市の立ち位置というところですけれども、冒頭でも御説明があったように、最終的には大学が決めるということが大原則になろうかと思います。当然、大学が今から場所を決めて建築をしていく、工事をしていく、発注をしていくということになりますが、そこについてはなかなか大学だけでは難しいので、我々で技術的なサポートをしながら、アドバイスを行いながら一緒にやっていきたいというところが立ち

位置でございます。

それと２点目の、旦過の負担金の変更についてということなんですけれども、ＢＣ地区については民間施行になりますので、基本的にはそういったところはまだないと聞いております。

３つ目の、遊休地や民有地で賃貸とかも含めて検討してはどうかというお話をいただきました。賃貸については、やはり大学が基本的には自己所有というのが大原則というところがもともとありまして、今活用しようとする助成事業も、自己所有というところが基本の制度になっております。委員がおっしゃったとおり、賃貸でもどうかというところがございますので、国の制度としては、例えば20年間の長期契約が結べるようなところであれば、そういったところも設置を可能にするというような緩和策も取っております。ただ、やはり都心部でいくと賃料というのが、例えば4,000平米の床を借りようとすると年間約1.5億円から２億円ぐらいのところが多くなります。それを20年となるとかなりの費用が出てくるというところで、今、有利な財源という形で考えると、今の助成金を活用してきちっと施設を整備していくほうが最終的な市の負担というのは少ないのかなと考えております。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員長（佐藤栄作君） 今、自己所有の話があったんですけど、リバーウォークに西日本工業大学が入っているじゃないですか。あの辺はどれぐらいの相場で借りているか分かりますか。あれは自己所有じゃないですよね。

○副委員長（三宅まゆみ君） 大学整備担当課長。

○大学整備担当課長 我々が今都市整備局から頂いている資料では、恐らく西日本工業大学は外の建物を大学で持たれているんじゃなかろうかと思います。以上でございます。

○副委員長（三宅まゆみ君） 佐藤委員。

○委員長（佐藤栄作君） 分かりました。

仮にＢＣ地区であれば、民間の所有であるということなんですけれども、今後、新学部が入るということになると当然市が関わってくることになるわけだと思うんですよね。もともと想定していた旦過の再開発事業というのがかなり大きく計画が変わってくるのかなと思うんですけれども、新しく建てるというか、公共施設マネジメントって一体どうなったんだろうというのを率直に受けるんですけど、皆さんにそれをお話しするというのもあれなんですが、もう少しその辺を考えてもらいたいというのと、あと、皆さんから言われているとおり、何も固まっていない中で、もう黄色信号がともっているから早くって言われても、僕たちもどう審査していけばいいのかが本当によく分からないんですよね。だから、本当にある程度何か決まっているものがあるのであれば、しっかり説明、報告していただいて、我々は別に反対しているわけでもないですし、新学部ができることは大変歓迎

していますから応援したいんですけれども、どのように応援していけばいいかも全く分からない状況になっていますから、その辺をしっかり酌み取っていただいてやっていただきたいと要望しておきます。

○副委員長（三宅まゆみ君）ここで、委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（佐藤栄作君）ほかにありませんか。政策局長。

○政策局長　様々な御意見をいただきましてありがとうございました。実現に向けての課題というのを今いろいろいただいておりますので、我々で整理した上で適宜御説明させていただきながら、また大学の支援をしてまいりたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いします。

○委員長（佐藤栄作君）分かりました。では、ほかになければ以上で終わります。

ここで執行部説明員は退室を願います。

（執行部退室）

次に、各種委員の選出を行います。

４月１日付組織改正により、市民文化スポーツ局から総務市民局に一部事務が移管されたことに伴い、本委員会からは、北九州市民共済生活協同組合理事１名、北九州市住居表示審議会委員２名、北九州市社会教育委員２名を選出することとなりました。

各種委員の概要は、お手元配付の資料のとおりとなります。

まず、北九州市民共済生活協同組合理事の選出を行います。

選出方法については、従来の例により、本委員会の委員長を選出することとしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

次に、北九州市住居表示審議会委員の選出を行います。

選出方法については、従来の例により、住居表示を実施することが想定される区の選出議員を選出することにしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

今後、小倉北区及び八幡西区での実施が想定されます。

まず、小倉北区は、先ほど北九州市民共済生活協同組合理事に選出された私を除き、同区選出の議員２名から抽せんにより選出することにしたいと思います。

抽せんの方法は、８番と９番の番号を記したくじ棒のうち、８番のくじ棒を引いた方を当選人とします。

また、くじ棒を引く順序は、従来の例により、大会派順とします。これに御異議ありま

せんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

これより抽せんを行います。

（抽せんを実施）

それでは、大石委員が選出されました。

次に、八幡西区は、同区選出の議員が３名おられますので、抽せんにより選出をすることにしたいと思います。

抽せんの方法は、10番から12番までの番号を記したくじ棒のうち、10番のくじを引いた方を当選人とします。

また、くじ棒を引く順序は、従来の例により、大会派順とします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

これより抽せんを行います。

（抽せんを実施）

それでは、村上幸一委員が選出されました。

次に、北九州市社会教育委員の選出を行います。

選出の方法については、現在、北九州市民共済生活協同組合理事及び北九州市住居表示審議会委員に選出された委員３名を除く７名の抽せんにより選出することとし、抽せんの方法は、１番から７番までの番号を記したくじ棒のうち、１番及び２番のくじ棒を引いた方を当選人とします。

また、くじ棒を引く順序は、従来の例により大会派順とし、最後に副委員長の順とします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、そのように決定しました。

これより抽せんを行います。

（抽せんを実施）

それでは、岡本委員及び井上委員が選出されました。

以上で各種委員の選出を終わります。

ほかになければ、本日は以上で閉会します。

総務財政委員会　委員長　佐藤栄作　印

副委員長　三宅まゆみ　印